



日本統計学会 会報 2023.7.31 No. 196

発行——一般社団法人 日本統計学会
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-6 能楽書林ビル5F
公益財団法人 統計情報研究開発センター内 日本統計学会事務局
Tel & Fax : 03-3234-7738
編集責任——川崎 能典(理事長)／小山 慎介(庶務理事)
中島 上智(前広報理事)／小西 葉子(広報理事)
城田 慎一郎(前広報委員)／浦沢 聡士(広報委員)
高橋 慎(前広報委員)／塚本 高浩(広報委員)
振替口座—00110-3-743886
銀行口座—みずほ銀行九段支店普通 1466879番

JAPAN STATISTICAL SOCIETY NEWS

目次

- | | |
|---|--|
| 1. 会長就任のご挨拶…………… 照井伸彦… 1 | 11. 第5回 細谷賞授賞について…………… 松田安昌… 13 |
| 2. 会長退任のご挨拶…………… 樋口知之… 2 | 12. 2023年度統計関連学会連合大会のお知らせ(第三報)
…………… 竹内光悦・西山慶彦・橋口博樹… 14 |
| 3. 理事長就任のご挨拶…………… 川崎能典… 3 | 13. 被選代議員会報告…………… 19 |
| 4. 理事長退任のご挨拶…………… 大森裕浩… 5 | 14. 2023・2024年度会長選挙開票報告…………… 20 |
| 5. 第28回 日本統計学会賞について…………… 樋口知之… 6 | 15. 理事会・委員会報告(2023年5月13日開催)…………… 20 |
| 6. 第3回 日本統計学会中村隆英賞について
…………… 樋口知之… 7 | 16. 社員総会報告…………… 22 |
| 7. 第19回 日本統計学会統計活動賞について
…………… 樋口知之… 9 | 17. 理事会・委員会報告(2023年5月27日開催)…………… 28 |
| 8. 第19回 日本統計学会統計教育賞について
…………… 樋口知之… 9 | 18. 分科会報告…………… 29 |
| 9. 第17回 日本統計学会研究業績賞について
…………… 樋口知之… 10 | 19. 和文誌送付方法の変更…………… 大森裕浩… 33 |
| 10. 第37回 小川研究奨励賞について…………… 樋口知之… 11 | 20. 博士論文・修士論文の紹介…………… 34 |
| | 21. 新刊紹介…………… 35 |
| | 22. JSS Research Series in Statistics からの新刊情報… 35 |
| | 23. 学会事務局から…………… 35 |
| | 24. 投稿のお願い…………… 36 |

1. 会長就任のご挨拶

照井 伸彦 (東京理科大学)

この度、代議員会での選出および会員による選挙結果に基づき2023年5月の理事会において日本統計学会会長に選出されました。樋口知之之前会長をはじめとして歴代会長のご功績を引き継ぐことの重責を感じています。川崎能典理事長をはじめ理事、監事、代議員の方々の御協力を得ながら、学会のために尽力する所存です。

現下の第6期科学技術・イノベーション基本計画においては、あらゆる分野の科学技術に関する知見を総合的に活用して社会の諸課題への的確な対応を図る総合知の推進が謳われており、これを実践する有力な共通言語が統計学およびデータサイエンスと認識しています。またデータサイエン

スが叫ばれる以前から、統計学はむしろ文系において応用の拡大をもたらしています。

経済学・経営学、社会学・行動科学、心理学

はもちろんのこと、言語学、歴史、教育、法学・政治学などでの統計・データ分析の実践には著しい進展があり、分野を超えて隔々までデータ分析が行きわたっています。計算社会科学という学会も誕生しました。これは特定分野のディスシプリンに依存しない学際的でAI・データサイエンス技術の社会実装に力点



を置く分野と言えます。またディシプリンの性格の強い経済学では、マイクロデータへのアクセス拡大とともに高度化してきたマイクロ経済/ビジネス実証分析や自然実験に基づくRCT実践など、新しい統計・データサイエンスの応用が急速に進んでいます。これらは統計学が社会の広範な領域に浸透してきた証左であり、今後も応用の拡大と深化が統計学の適切な位置づけを確固たるものとするのに重要であると考えます。このように統計分析・データサイエンスが文系を含めた社会の隅々まで行きわたった状況の視点をもって学会運営を考えることも私に課せられたミッションのひとつと理解しています。

他方、統計やデータサイエンスを教える人材の不足が深刻となっています。データサイエンスに関する学部学科の新設が急ピッチで進んでいるものの人材育成には時間がかかります。この意味で統計数理研究所が実施主体の統計エキスパート人材育成プロジェクトは即効力のある特筆に値する活動であり、また本学会を母体として発足した一般財団法人統計質保証推進協会による統計検定はこれを補う重要な役割を担っていると思います。現在、数理・データサイエンス・AIのキーワードで様々な取り組みが求められている中で、統計学

の存在感を社会に向けていかに打ち出すがが決定的に重要な局面であり、統計検定受験者のさらなる拡大は、IoT社会で生活する人々のリテラシーとしての統計学の今後の位置づけを適切に方向づけるものと認識しています。

日本統計学会が社会および学術領域においてさらに存在感を示し、また国際的にもさらに発展するように努めたいと思っております。会員の皆様の御支援をよろしくお願い申し上げます。

会長略歴：

照井 伸彦（てるい のぶひこ）経済学博士
現職 東京理科大学経営学部ビジネスエコノミクス学科教授
1991年 東北大学大学院経済学研究科博士後期課程修了
山形大学人文学部経済学科講・助教授を経て
1994年 東北大学経済学部助教授
1998年 東北大学経済学部教授
1999年 東北大学大学院経済学研究科教授
2017年 東北大学大学院経済学研究科長・経済学部長
2022年4月 東京理科大学教授、現在に至る
研究分野：計量経済学、統計学、マーケティング

2. 会長退任のご挨拶

樋口 知之（中央大学理工学部）

去る5月27日の社員総会をもって会長としての任期を終えました。この約2年間、大森裕浩理事長、理事・監事、代議員の皆様を始め、会員の皆様のご協力のおかげで会長としての務めを不十分ながらもどうにか果たすことができました。学会の活動は、多くの方々の真摯な奉仕の精神で支えられており、お世話になった皆様のお名前すべてを挙げることはできませんが、皆様からのご支援、ご鞭撻に心より御礼申し上げます。

この2年間、学会を取り巻く外の変化・動きとしましては、川崎茂先生が会長を務められました

前期と比較すると、国土交通省の統計調査に関わる問題以外は大きなものはなかったと思います。この問題に対しましては、会員の多大なるご協力を得ながら大森理事長が主導して声明文をとりまとめられました。タイミングを逃すこと無く、問題の本質をあらわにして核心をつく具体的提言を学会から出すことができましたことに、この場を借りて関係者に改めて感謝申し上げます。

私の在任期間中、学会活動はずっとコロナ禍の影響下にあり、新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行は退任間際になりました。コロナ禍前

のような通常の活動も制限され、外の動きもあまりなかったこともあり、私は学会活動のDX推進に熱心に取り組みました。まず、理事会の運営にかかわる議論の方法を、メールからSlackに変更しました。メールでは、時間順の情報整理と対立軸（論点）の確認のために、各人が時間をかけてメールの処理を行わねばなりません。普通の会員にとってはそのような作業は面倒であり、結果として、重要な論点に多様な意見を反映できない現状がありました。Slack上での意見交換のメリットは、複雑な背景や込み入った経緯のある論点に対して、後からでも誰でも議論に参加し易いなど、学会運営に関して会員の集合知を活用できる点にあります。Slackの無料プランの方針が2022年9月に急に変更になったこともあり、情報の保存の観点からはこのままSlackの利用が適切であるかは疑問は残りますが、同様のサービスを廉価で提供する企業も多数でてきていますので、デジタルによる学会活動の主たる場をそのようなサービスに移行することは待ったなしであると思います。

また、法人としての各種意志決定法の電子化（DX）も大きく進みました。これには、庶務担当理事の小池祐太先生の貢献が多大了。これまでできない、あるいはやりたくないと考えられていた手段を、丁寧に作業を進めれば問題なく実施できることを示しました。これにより、法人として急な対応が求められる案件に対しても適切に対応できます。さらには、和文誌の紙媒体の原則廃止も実行しました。すでに和文誌の原稿は、Web上から会員・非会員を問わず誰でも無料で読めるに

もかわらず、和文誌は会員に郵送されていました。

DX推進の一方、会員同士が直接リアルに意見交換できる良さを深く感じ入りました。春季集会のリアルポスターセッションでの熱い議論や、懇親会での新たな出会いを見るにつけ、学会に所属する大きなメリットは間違いなくこれだと思いました。学会の会員数を増やす方策としては、一に学会の裾野を広げる、二に良質なコンテンツを提供するしかありません。学会が提供できる良質なコンテンツとして、コロナ禍を経てあらためて、集会・大会などの専門家が一堂に会する場が再評価されています。春季集会をハイブリッドで開催することにお大変お骨折りいただいた企画・行事担当理事の吉羽先生をはじめ慶応大学・東京都立大学関係者の方々に深く御礼申し上げます。

今、教育界・産業界を問わず、あらゆるところでChatGPTをはじめとする生成（系）AIが話題となっています。比較的AIに近いところで研究を行ってきた私としても、生成AIの驚異的な性能向上には衝撃を受けています。プロダクトの真贋の区別が非常に困難になる中で、“データ”にもとづいて意志決定を行う手法に関する専門家としての学会会員には、これまで以上に高い倫理観のもとづく行動が求められるでしょう。AI時代にこそ統計家の行動基準が大きな規範になるはずです。照井伸彦新会長を中心に学会がさらにメッセージ発信されることを願っています。この2年間、どうもありがとうございました。

3. 理事長就任のご挨拶

川崎 能典（統計数理研究所）

このたび理事長を拝命いたしました。私自身と学会との関わりを、運営への貢献という点から振り返ってみますと、2006年9月から2年間庶務担当理事を務めたのが最初です。当時の庶務担当理事は会計業務や科研費申請など様々な職責も負っ

ており、かなり大変な2年間であったと記憶していますが、現在の理事会や各種常設委員会の体制はうまく分掌がなされており、よりサステナブルな組織体制になっていると感じます。

日本統計学会大会を兼ねる統計関連学会連合大

会への運営貢献という意味では、2006年度にプログラム委員、2017年度には運営委員会委員長（前年度は副委員長）を拝命し、貴重な経験をさせていただきました。

理事長は、学会運営のあらゆる面に関与を求められる責任重大なポジションであり、自分のこれまでの限られた経験を元に本当に乗り切れるのか、不安がないと言えば嘘になります。しかしながら、照井会長をはじめ、理事、各種委員会委員をお引き受け頂いた方々はいずれも一騎当千の頼れる方々です。役員、委員の皆様のご協力を得ながら、日本統計学会の発展に努める所存ですので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、向こう2年間という限られた期間ではありますが、今後学会運営において私が重要と考える事項について述べたいと思います。

第1は運営全般に関することですが、コロナ禍終息後の会務運営のあり方を、単にコロナ禍以前のやり方への復帰ということではなく、過去3年間で社会に浸透したオンライン／リモートツールも活用しながら検討して参ります。また、一般社団法人に移行して12年が過ぎましたが、組織や規則の一部に見直すべきところがないかどうか、これまでの理事会からの引継事項を踏まえながら検討を進めます。

第2は、会員であることのバリューの源泉を、このインターネット時代という文脈の中で不断に問い直し、学会事業に反映していくことです。この課題は俄に現出したものではなく、本学会に限らず学術団体が数年来直面しているものですが、back to normal の過程で、学会の重要な機能である人的ネットワークが「一周回って」見直される時は必ず来ると考えます。

第3は、統計関連学会連合への協力と、国際関係事業の推進です。これは、連合傘下の学会のひとつとして連合大会に参画し、Japanese Journal of Statistics and Data Science に編集協力を行う、とい

う意味では新味に欠けることと映るかもしれませんが、JJSD の出版経費の一部や、国際関係担当理事のご尽力で連合大会や春季集会で開催している国際セッションは、渉外理事が中心となって獲得した科研費で支えられています。こうした財政的基盤の節目を任期の半ばで迎えることに、将に守成の難きを知る思いですが、理事会としてはこの点に最善を尽くして臨む所存です。

この他、統計教育・人材育成を切り口とした社会への貢献も重要ですが、統計教育委員会、質保証委員会の活動を通じて、また統計検定の実施母体である一般財団法人統計質保証推進協会との連携を緊密に保ちつつ進め、必要な機会には各種報告書・提言を取りまとめて社会に発信します。また、理事・各種委員会委員の交代の機会には、多様性推進の観点に立ちつつ人選を進める所存です。

いろいろ申し上げましたが、会員の皆様におかれましては、大会・集会、各種事業に積極的にご参加いただくことで、学会の活動を盛り立てて頂けましたら幸甚に存じます。



理事長略歴：

川崎 能典（かわさき よしのり）博士（経済学）
1965年2月 青森県生まれ
1992年3月 東京大学大学院経済学研究科博士課程中退
1992年4月 統計数理研究所助手
2005年12月 統計数理研究所助教授
2015年4月 統計数理研究所教授、現在に至る
専門分野：時系列解析、計量ファイナンス、計量経済学

4. 理事長退任のご挨拶

大森 裕浩（東京大学大学院経済学研究科）

2023年5月27日の社員総会をもって2年間にわたる理事長の任期を終えることとなりました。学会に貢献する機会を下さったことに感謝を申し上げます。会長・理事・監事・委員の皆様の多大なるご協力があり、この間に様々な取り組みを進めることができました。理事会構成員の方々の献身的な業務遂行には本当に頭の下がる思いです。改めて感謝を申し上げます。今回、樋口会長の提案によりslackを使った理事会のDXを推進したことで、理事会におけるオンラインの意見交換が効率的に活発化して迅速に合意に達することができました。

この2年間の理事会においてまず取り組んだのは準会員制度の適正な運用でした。準会員制度は、主として中学校・高等学校の教員等を対象とした制度でしたが、そのことが周知されずに誤って準会員を希望される方が増えていました。このため、その趣旨を明らかにするべく定款細則の修正を行いました。結果として準会員制度の正しい運用が進みました。

また会員の皆様に対するサービスの向上を目的として、広報委員会の協力のもと、日本統計学会YouTubeチャンネルを開設しました。具体的には統計関連学会連合大会における日本統計学会各賞受賞者記念講演、日本統計学会春季集会（慶応義塾大学三田キャンパス・東京都立大学南大沢キャンパス）における先進的な企画セッションの講演・国際セッションにおける著名海外研究者による基調講演を録画・配信を行いました。特に春季集会では2つの企画セッションが並行して行われていますので、集会の後で改めて興味あるセッションをすべて視聴できるように配慮しました。大会委員会、企画・行事委員会、実行委員会の意欲的な取り組みの結果、多くの興味深い講演が行われており、開催地から遠く離れた大学の院生

も、出張できなくても学会の様子が分かったのではないのでしょうか。

最近では特にDiversity, equity and inclusion（多様性、公平性、包括性）が重視されていることに鑑みて、日本統計学会もこれを推進するために多様性推進特別委員会を設置しました。この委員会の主導により、日本統計学会春季集会における多様性推進の企画セッションの開催、女性役員の登用、男女共同参画学協会連絡会へのオブザーバーとしての加盟、女性統計家・データサイエンティスト育成分科会の発足が進められました。会長・理事長は代わっても、今後も学会は多様性推進活動に継続的な支援を行っていきます。

また近年多くの学術雑誌や学術論文がオンライン化され、ご存じのように日本統計学会の和文誌もオンラインで読むことができるようになっていきます。このことに基づいて環境への配慮・経費削減のため、これまで行ってきた紙媒体での配布を2023年9月より希望者のみに限定させていただきました。学会運営の効率化や学会サービスの向上のために年会費を値上げすることも考えましたが、まずは支出の見直しを進めています。

さらに日本統計学会の社会的な貢献にも取り組みました。2021年12月に国土交通省の実施する基幹統計調査である「建設工事受注動態統計調査」において、建設業者の受注実績データの二重計上が行われていたことが明らかになりました。学会の関係者の皆様方のご意見をもとに声明を発表し「大学・大学院で統計の専門的教育を受けた人材の採用、統計に関する専門的知識取得のための研修の抜本的強化、統計について相談できる窓口の設置や学識経験者との意見交換の場の設置、報告遅延に柔軟なデータ入力システム設計、調査票記入の負担軽減」等について提言を行いました。本声明は、総務省統計委員会にも資料として提出さ

れており、日本統計学会の要請として受け止めていただいたものと思っています。本声明の作成に協力をくださった学会の会員の皆様にも改めてお礼申し上げます。

最後に一般財団法人統計室保証推進協会からのご支援に対し感謝申し上げます。同協会は日本統計学会が設立した団体で、学会が公式に認定している統計検定を実施しています。同協会から日本統計学会統計教育委員会への委託事業の

ほか、春季集会の共催など多くのご支援を頂いております。今後も継続的な活動・支援をよろしくお願いいたします。

理事長の任期を終えた今後2年間は引き続き監事として、照井伸彦会長・川崎能典理事長の新体制のもとで理事会を見守ることになりますが、併せて日本統計学会の今後のさらなる発展を祈念しております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

5. 第28回 日本統計学会賞について

樋口 知之（前日本統計学会会長）

2023年度の日本統計学会賞は、以下の方に授与することが決まりました。

[1] 受賞者氏名：柿沢 佳秀 氏

略歴：1991年 東京理科大学理学部応用数学科卒業、1996年 大阪大学大学院基礎工学研究科数理系博士後期課程修了、1996年 北海道大学経済学部講師、1998年 北海道大学経済学部助教授、2007年 北海道大学大学院経済学研究科准教授、2011年 北海道大学大学院経済学研究科教授、2017年 北海道大学大学院経済学研究院教授、現在に至る。

受賞理由：柿沢氏は大阪大学大学院博士課程の学生時代から論文を出版しはじめ、最初は定常過程の標本分散行列の漸近有効性から始めたが、多彩な才能を発揮し、単調関数による変換からのパートレット調整の提案（主要業績 [2]）、さらには多次元定常過程のスペクトル行列の積分汎関数による判別・分類統計量の提案とその基礎理論と地震波への応用（主要業績 [3]）を発表した。英文共著（Springer 社）では、スペクトル密度関数の積分汎関数の基礎理論構築、時系列判別解析の基礎手法の提案、定常過程の2次形式への大偏差理論の展開を行い、若くして国際的な檜舞台に出た。その後、パートレット調整の検出力比較を強力に進め歪度修正の仕組みを明らかにし、推定量

における、1次有効なら2次有効の現象を検定論で明らかにした。その後、ノンパラメトリックな確率密度推測では非対称カーネルを族として体系化した発想を出し、他の族との関係や歪対称分布論との関係も明らかにした。柿沢氏の研究領域は極めて広汎で、バハドール有効性や、ベルンシュタイン近似による密度関数推定等、多彩であり、国際的にもハイスタンドードにより、日本統計学会賞にふさわしいものである。

主要業績：

- [1] Masanobu Taniguchi and Yoshihide Kakizawa. Asymptotic Theory of Statistical Inference for Time Series. (2000). *Springer*, New York.
- [2] Yoshihide Kakizawa. Higher order monotone Bartlett type adjustment for some multivariate test statistics. (1996). *Biometrika*, 83 (4), 923-927.
- [3] Yoshihide Kakizawa, Robert H. Shumway and Masanobu Taniguchi. Discrimination and clustering for multivariate time series. (1998). *Journal of the American Statistical Association*. 93, 328-340.
- [4] Yoshihide Kakizawa. Third-order average local powers of Bartlett-type adjusted tests: Ordinary versus adjusted profile likelihood. (2017). *Journal of Multivariate Analysis*. 153, 98-120.
- [5] Yoshihide Kakizawa. Multivariate elliptical-based Birnbaum-Saunders kernel density estimation for

nonnegative data. (2022). *Journal of Multivariate Analysis*. 187, 104834, 1-20.

[2] 受賞者氏名：富澤 貞男 氏

略歴：1979年 東京理科大学理工学部数学科卒業，1981年 東京理科大学理学専攻科数学専攻卒業，1983年 東京理科大学大学院理工学研究科情報科学専攻修士課程修了，理学修士，1986年 同博士課程修了，理学博士，1986年 東京理科大学理工学部情報科学科助手，1992年 同講師，1997年 同助教授，2001年 同教授，2022年 東京理科大学名誉教授，明星大学情報学部情報学科常勤教授，現在に至る。

授賞理由：富澤貞男氏は，数理統計学における分割表解析を専門とし，数多くの優れた業績を挙げている．特に，正方分割表解析におけるモデル，モデルの分解，モデルからの隔たりを測る尺度に関する研究は，極めて斬新かつ独創的であり国内外の研究者に大きな影響を与え，分割表解析の発展に大きく貢献した．これらの方法は，医学・薬学，社会学，心理学など幅広い分野で応用されている．また，多くの博士を輩出するなど後進の育成にも尽力し，また学会での要職を多数歴任するなど統計界への貢献も顕著である．最近では，明星大学のデータサイエンス学環の創設に携わり，

統計学・データサイエンスに関する教育・研究のさらなる発展に尽力している．富澤氏のこのような統計学の発展および普及に対する多大な貢献は，日本統計学会賞にふさわしいものである．

主要業績：

- [1] Tomizawa, S. (1984). Three kinds of decompositions for the conditional symmetry model in a square contingency table. *Journal of the Japan Statistical Society*, 14, 35-42.
- [2] Tomizawa, S. (1993). Diagonals-parameter symmetry model for cumulative probabilities in square contingency tables with ordered categories. *Biometrics*, 49, 883-887.
- [3] Tomizawa, S. (1994). Two kinds of measures of departure from symmetry in square contingency tables having nominal categories. *Statistica Sinica*, 4, 325-334.
- [4] 富澤貞男 (2006), 統計学における正方分割表の解析, 数学, 58, 263-287
- [5] Tomizawa, S. and Tahata, K. (2007). The analysis of symmetry and asymmetry: orthogonality of decomposition of symmetry into quasi-symmetry and marginal symmetry for multi-way tables. *Journal de la Société Française de Statistique*, 148, 3-36.

6. 第3回 日本統計学会中村隆英賞について

樋口 知之 (前日本統計学会会長)

2023年度の日本統計学会中村隆英賞は，以下の方に授与することが決まりました．

[1] 受賞者氏名：原田 泰 氏

略歴：1974年 東京大学農学部農業経済学科卒業，1974年 経済企画庁入庁（現内閣府），同庁国民生活局国民生活調査課長，同庁調査局海外調査課長などを経て，財務省財務総合政策研究所次長，内閣府経済社会総合研究所総括政策研究官，大和総研専務理事チーフエコノミスト，早稲田大

学政治経済学術院教授，2015年 日本銀行政策委員会審議委員，2020年 名古屋商科大学ビジネススクール教授，現在に至る．

授賞理由：原田泰氏の業績は数量的な歴史分析が大きな比重を占めており，特に，昭和恐慌期の実証分析は，中村隆英先生の昭和恐慌分析を補強するものである．また，経済学，経済政策についての啓蒙的著作においては，データの整理と簡単な実証分析により，事実や経済理論に基づかない思い込みの議論を批判し，少なからぬ人々にとって

意外な結論を導き出している。さらに、金融政策を巡る実証分析では、経済変動において、金融政策が重要であることを示している。また、実際に行われた金融緩和政策によって、雇用、財政、所得分配などが改善したことを指摘している。特に、構造失業率3.5%説に対して、本当の構造失業率が大幅に低いとの指摘は貴重である。これらの業績は中村先生のアカデミックな歴史記述のなかから現代の政策を考えさせる『昭和恐慌と経済政策』、『昭和経済史』などと共鳴するものである。原田氏の業績を一言で言えば、統計と現実を見て、素朴な、あるいは本格的な実証分析によって、真実が何かを探索したことである。これは統計の意義そのものであり、また、中村隆英先生が目指されたことでもある。原田氏の広範な業績は、日本統計学会中村隆英賞にふさわしい。

主要業績：

- [1] “Non-traditional Monetary Policies and their Effects on the Economy”, *International Journal of Economic Policy Studies*, 15 (1), 23-40, 2021.
- [2] “Why was Wilsonian-Taisho moment lost in Japan in spite of its economic success?”, *Japanese Journal of Political Science*, 19 (4), 571-586, 2018.
- [3] 「8 金融の量的緩和はどの経路で経済を改善したのか」(増島稔氏との共著), 吉川洋編『デフレ経済と金融政策 内閣府経済社会総合研究所 バブル/デフレ期の日本経済と経済政策2』233-275頁, 慶応義塾大学出版会, 2009年.
- [4] 『日本国の原則』日本経済新聞出版社, 2007年, 石橋湛山賞受賞
- [5] 「第8章 なぜデフレが終わったのか：財政政策か, 金融政策か」(中澤正彦氏との共著), 岩田規久男編著『昭和恐慌の研究』東洋経済新報社, 2004年, 日経・経済図書文化賞受賞.

[2] 受賞者氏名：安田 聖 氏

略歴：1970年 同志社大学工学部卒業, 1978年同志社大学大学院工学研究科博士課程単位取得退学, 1978年 京都大学東南アジア研究センター助手, 1982年 ペンシルバニア大学経済学部リサー

チアシスト, 1984年 神戸大学経済経営研究所専任講師, 1986年 神戸大学経済経営研究所助教授, 1994年 一橋大学経済研究所助教授, 2000年 一橋大学経済研究所教授, 2011年 一橋大学名誉教授, 現在に至る.

授賞理由：安田聖氏は、京都大学東南アジア研究センターやペンシルバニア大学において、アジアリンクモデルや世界リンクモデルの運用に携わり、ビッグデータの分析・保存方法について多くの知見を得た。一橋大学経済研究所では、松田芳郎教授が1996年度に立ち上げた科学研究費重点領域研究「統計情報のフロンティア：マイクロデータによる社会構造分析」において、事務局として尽力するとともに、海外の公的統計の公開方法の状況と制度について調査を行った。その後、安田聖氏は、松田芳郎教授との共同研究として、当時の統計法の範囲で、個人名等を秘匿したデータとして公的統計の20%サンプルを提供する方法を模索した。しかしながら、この提供方法はいくつかの問題により実用には耐えなかった。安田聖氏は、20%サンプルの問題点を克服するため、80%サンプル作成の可能性を探り続け、この研究成果が統計法の改正につながり、現在の匿名データ提供に結びついている。安田聖氏は、経済統計分野における実証分析を可能にする匿名データの制度構築に対して顕著な業績があり、日本統計学会中村隆英賞にふさわしい。

主要業績：

- [1] 『仮想計算機と計算機言語システム：世界計量経済モデル分析システム』神戸大学経済経営研究所, 1986年.
- [2] 『統計情報検索システム』一橋大学経済研究所 日本経済統計センター, 1999年.
- [3] 『計量モデルの構造と解法—オーダリングとスパーサー—』日本経営科学研究所, 1999年.
- [4] 『インターネット・セキュリティの落とし穴』日本経営科学研究所, 2003年.
- [5] 『農家経済調査データベース・システム』一橋大学経済研究所附属社会科学統計情報研究センター, 2010年.

7. 第19回 日本統計学会統計活動賞について

樋口 知之（前日本統計学会会長）

2023年度の日本統計学会統計活動賞は、以下の方に授与することが決まりました。

受賞団体名：情報・システム研究機構 統計数理研究所

活動：「統計エキスパート人材育成プロジェクト」

授賞理由：様々な領域におけるデータ駆動型の科学研究の進展に向けて「統計学」は必須の科学であり、統計の専門人材に対するニーズは極めて高い。このような中、2017年以降、毎年のようにデータサイエンス系学部・学科の新設が続く、この動きはますます加速化している。一方、新たな組織の整備のみが先行して急速に進んだため、新設学部での統計系の専門教員の確保が困難となる問題が顕在化した。これに対応するため、政府において、統計学の専門教員の早期育成体制を整備する旨の方針が決定され、文部科学省の公募により開始された事業が「統計エキスパート人材育成

プロジェクト」である。

この事業は、諸科学分野の大学院生等に対してデータ分析等の基礎となる統計学の講義や統計活用研究の指導を行うことができる「大学統計教員」を育成するとともに、全国の大学等でこれらの教員が中核となり、統計を駆使して学術研究や産業界等に貢献することができる「統計エキスパート」をさらに育成するという、人材育成の好循環システムの構築を目指すプロジェクトである。これにより、事業期間の5年間（2021～2025年度）で30名以上の大学統計教員を育成し、事業期間を含め10年間で約500名の統計エキスパートを育成することを目標としている。このような人材育成の歯車が円滑に回りだせば、「統計教員の確保」という大きなあい路も確実に解消される方向に進むことが期待される。このように、この事業は、広く統計学及び統計の分野において高く評価し得る活動である。

8. 第19回 日本統計学会統計教育賞について

樋口 知之（前日本統計学会会長）

2023年度の日本統計学会統計教育賞は、以下の方に授与することが決まりました。

[1] 受賞者氏名：都丸 希和 氏

略歴：2009年 名古屋大学情報文化学部卒業、2011年 名古屋大学大学院情報科学研究科修士課程修了。2011年 名古屋市立港明中学校、2012年 名古屋大学教育学部附属中・高等学校に勤務。また名古屋大学教職課程教科及び教科の指導法に関する複数の科目にて、非常勤講師など、現在に至る。

授賞理由：都丸希和氏は中等教育における統計・

データサイエンス教育において、名古屋大学との高大連携・産学連携事業の推進にむけた授業デザイン等を踏まえ、先験的かつ汎用性の高い授業事例開発に尽力している。具体的には所属校である名古屋大学教育学部附属中・高等学校にて、2006年からの3期に渡りスーパーサイエンスハイスクール校に認定されており、同氏は授業設計・授業実施に中心的に活動し、所属校における理数探究基礎の授業に取り組んでいる。また同学校において、STEAM教育の導入においても精力的に活動し、開発責任者の一人として携わっている。この活動は、昨今求められている横断的な学びとし

て、数学にとどまらず、理科・保健体育といった他教科と統計分野との協同につながっている。その他、独自テキストの作成、大学における数学科や情報科の教師を目指す大学生に対して、授業を担当し、高等学校における統計・データサイエンス教員の育成にも携わっている。統計グラフコンクール、和歌山県データ利活用コンペティション、中高生・スポーツデータ解析コンペティション、WWL生徒研究成果発表会など、生徒の統計的課題研究の指導にも積極的に携わっている。以上から、都丸希和氏は、日本統計学会統計教育賞にふさわしい。

[2] 受賞団体名：香川県立観音寺第一高等学校
FESTAT

活動：大学・社会と初等中等教育現場が連携する統計的探究活動教育の支援：FESTAT（全国統計探究発表会）の基盤構築と展開

授賞理由：2012年度から高等学校学習指導要領で数学Ⅰに「データの分析」が取り入れられ、2022年度の学習指導要領では、数学や情報においてさらに統計の内容が充実し、数学を用いての日常生活における問題発見・解決も重視されることと

なった。統計を利活用した探究活動は、文系・理系を問わず取り組みやすく、生徒が数学の有用性を実感できる活動である。一方で数学科の教員を含め多くの教員は、高校、大学を通して統計を学んでいない。また高校生同士で「統計を利活用した研究」の内容を主とする発表交流の場が少ない。そこで高校現場に統計の指導を根付かせ、広げるための契機が必要であったが、その要望に適切に対応したのが本事業「FESTAT（全国統計探究発表会）」である。FESTATは2019年度より、SSH事業（2019-2021年は科学技術人材育成重点枠、2022は基礎枠）として実施され、全国から多数の高校が参加しており、高等学校における統計・データサイエンス教育の普及としても十分に評価できる。基調講演や応援メッセージ、教員同士の情報交換会、高校で統計・データ分析の課題研究で成果をあげた学生が司会進行やファシリテーター、応援メッセージ、招待発表をするなど、毎年度工夫を凝らした内容となっている点も高く評価できる。以上の活動から、香川県立観音寺第一高等学校による事業FESTATは、日本統計学会統計教育賞にふさわしい。

9. 第17回 日本統計学会研究業績賞について

樋口 知之（前日本統計学会会長）

2023年度の日本統計学会研究業績賞は、以下の方に授与することが決まりました。

[1] 受賞者氏名：奥井 亮 氏

略歴：1998年 京都大学経済学部卒業、2000年 京都大学大学院経済学研究科修士課程修了、2005年 ペンシルバニア大学経済学部博士課程 修了PhD in Economics、2005年 香港科技大学経済学系 助理教授、2009年 京都大学経済研究所 准教授、2017年 上海紐約大学 准教授、2019年 ソウル大学校経済学部 副教授、2022年 東京大学大学院経済学研究科 教授、現在に至る。

授賞理由：奥井亮氏は、異質性や構造変化を持つ動的パネルデータの分析において多数の顕著な業績を挙げている。潜在的なグループ構造を持ち構造変化がグループごとに異なるモデルの識別と推定に関する研究や、潜在的なグループ構造と回帰係数の値の両方が構造変化点で変化するモデルに関する研究においては、パネルデータ分析における異質性や構造変化の重要性を示す優れた成果を挙げている。また、観測単位間で異なる動的構造を持つパネルデータを分析するためのモデルフリーアプローチの研究では、複雑で多様な動的構造を持つパネルデータを分析するための柔軟で実

装が容易な優れた手法を開発している。これらの研究成果は *Journal of Econometrics*, *Econometrics Journal* などの世界的に評価の高い学術雑誌に掲載されている。奥井氏の対象論文に代表される統計学の発展への顕著な貢献は、日本統計学会研究業績賞にふさわしいものである。

主要業績：

- [1] Lumsdaine, R. L., Okui, R., & Wang, W. (2023). Estimation of panel group structure models with structural breaks in group memberships and coefficients. *Journal of Econometrics*, 233 (1), 45-65.
- [2] Okui, R., & Wang, W. (2021). Heterogeneous structural breaks in panel data models. *Journal of Econometrics*, 220 (2), 447-473.
- [3] Okui, R., & Yanagi, T. (2020). Kernel estimation for panel data with heterogeneous dynamics. *Econometrics Journal*, 23 (1), 156-175.
- [4] Okui, R., & Yanagi, T. (2019). Panel data analysis with heterogeneous dynamics. *Journal of Econometrics*, 212 (2), 451-475.
- [5] Lee, Y.-J., Okui, R., & Shintani, M. (2018). Asymptotic inference for dynamic panel estimators of infinite order autoregressive processes. *Journal of Econometrics*, 204 (2), 147-158.

[2] 受賞者氏名：青木 敏 氏

略歴：1996年 東京大学工学部計数工学科卒業，2000年 東京大学大学院工学系研究科計数工学専攻博士後期課程修了，2000年 東京大学大学院情報理工学系研究科助手，2005年 鹿児島大学理学部数理情報科学科 助教授，2015年 神戸大学大学院理学研究科数学専攻教授，現在に至る。

授賞理由：青木敏氏は、一部実施実験計画に関し

て、従来は2水準の因子について定式化されていた、特定の水準の組合せが実施すべき実験であるか否かを示す多項式指示関数を、3以上の水準の因子を扱えるように拡張し、多項式指示関数の係数が満たす代数方程式の系を導出し、計画の意味が明白な多項式指示関数の表示を定義した。一部実施計画を列挙するには、多項式指示関数の係数が満たす代数方程式の系を解く必要がある。青木敏氏は、多項式環における素イデアル分解を有効に用いて、素朴な方法では計算が困難であった、ある一部実施計画の分類を与え、可換環論において根本的な概念である素イデアル分解の新たな統計学的応用を見出した。青木敏氏の一連の研究は、統計学的に重要な問題の代数的定式化、計算が困難な問題の抽出、計算代数を活用した問題の解決、統計学的応用への展開という、計算代数統計研究の模範を示している。計算代数の立場からも意義深い研究を行う一方で、和文の入門書も出版し、計算代数統計分野の幅広い発展に貢献してきた。以上に述べた青木敏氏の近年の一連の業績は、日本統計学会研究業績賞にふさわしい。

主要著書：

- [1] Aoki, S. (2019) Characterizations of indicator functions and contrast representations of fractional factorial designs with multi-level factors, *Journal of Statistical Planning and Inference* 203: 91-105.
- [2] Aoki, S., and Noro, M. (2022) Use of primary decomposition of polynomial ideals arising from indicator functions to enumerate orthogonal fractions, *Japanese Journal of Statistics and Data Science* 5: 165-179.
- [3] 青木敏 (2018) 計算代数統計 -グレブナー基底と実験計画法- 共立出版.

10. 第37回 小川研究奨励賞について

樋口 知之（前日本統計学会会長）

2023年度の小川研究奨励賞は、以下の方に授与

することが決まりました。

[1] 受賞者氏名：明石 郁哉 氏

略歴：2011年 早稲田大学基幹理工学部卒業，
2015年 早稲田大学基幹理工学研究科博士課程修了（学位取得），2015年 日本学術振興会特別研究員 PD，2016年 早稲田大学基幹理工学部助手，
2017年 同助教，2018年 早稲田大学理工学術院総合研究所講師，2019年 東京大学大学院経済学研究科講師，現在に至る。

受賞論文：

[1] Akashi, F., Taniguchi, M., Monti, A.C. and Amano, T. (2021). Diagnostic Methods in Time Series. *JSS Research Series in Statistics*, Springer Singapore.

[2] Akashi, F., Taniguchi, M. and Monti, A.C. (2020). Robust causality test of infinite variance processes. *Journal of Econometrics*, 216 (1), pp.235-245.

[3] Akashi, F., Bai, S. and Taqqu, M.S. (2018). Robust regression on stationary time series: a self-normalized resampling approach. *Journal of Time Series Analysis*, 39 (3), pp.417-432.

[4] Akashi, F., Dette, H. and Liu, Y. (2018). Change point detection in autoregressive models with no moment assumptions. *Journal of Time Series Analysis*, 39 (5), pp.763-786.

受賞論文の評価：明石郁哉氏は，非正則時系列モデルに対する様々な頑健化手法を用いた統計理論の研究に携わり，裾の重い確率過程に対する推測手法の構成，長期記憶性を持つモデルに対する分割標本化を用いた推測理論の構成などの貢献がある．特に時系列モデル特有の構造や問題点に着目したうえで自己加重法・経験尤度法を用いた解決方策を見出しており，独立モデルに対する結果を本質的に拡張するものである．また明石氏の一連の研究では一般的な先行研究とは異なり，モデル分散の有無や誤差分布が完全に未知の場合にも機能する統計手法が構築されていて，基礎的なモデルの推測のみならず，無限分散モデルの因果性検定，変化点解析にも研究を展開している．これらの結果はJournal of Econometricsなどのトップジャーナルに採録されており，さらに英文著書で国際的に広く研究成果を発信している．これらの

研究成果は従前の研究における制約を取り払い，高度，新規的な理論展開も与えていて，該当分野に新地平を拓くものである．また明石氏は国際的にも該当分野のリーダー的な存在であり，現在もブレイクスルー的研究を進展しつつある．これらの業績は，日本統計学会小川研究奨励賞にふさわしいものである．

[2] 受賞者氏名：松田 孟留 氏

略歴：2012年 東京大学工学部計数工学科卒業，
2017年 東京大学大学院情報理工学系研究科博士課程修了，2017年 東京大学大学院情報理工学系研究科特任助教，2020年 理化学研究所脳神経科学研究センターユニットリーダー，2022年 東京大学大学院情報理工学系研究科准教授，現在に至る．

受賞論文：

[1] T. Matsuda and W. E. Strawderman. Estimation under matrix quadratic loss and matrix superharmonicity. *Biometrika*, 109, 503-519, 2022.

[2] T. Matsuda, F. Homae, H. Watanabe, G. Taga and F. Komaki. Oscillator decomposition of infant fNIRS data. *PLOS Computational Biology*, 18 (3), e1009985, 2022.

[3] S. Amari and T. Matsuda. Wasserstein statistics in one-dimensional location-scale models. *Annals of the Institute of Statistical Mathematics*, 74, 33-47, 2022.

[4] T. Matsuda, M. Uehara and A. Hyvarinen. Information criteria for non-normalized models. *Journal of Machine Learning Research*, 22, 1-33, 2021.

[5] T. Matsuda and W. E. Strawderman. Predictive density estimation under the Wasserstein loss. *Journal of Statistical Planning and Inference*, 210, 53-63, 2021.

受賞論文の評価：松田孟留氏は，統計学の基礎理論に関する研究を行うとともに，応用数理や脳神経科学などの他分野との共同研究に積極的に取り組んでいる．論文 [1] では「行列優調和性」とい

う新たな数学的概念を導入することで、ベクトルの縮小推定に関する古典的な理論の行列への一般化を与えている。また、最適輸送理論における Wasserstein 距離に基づく統計的推定と予測に関する研究を行っている [3,5]。論文 [4] では、規格化定数の計算が困難な統計モデルに適用可能な情報量規準を開発している。さらに、時系列データの背後に潜む振動子をデータ駆動的に抽出する汎用

的な統計手法を開発し、この手法を用いた脳神経科学の研究者との共同研究 [2] を行っている。このように、松田氏は、統計学と関連分野における先駆的な研究を推進し、ラトガース大学の William Strawderman 教授、ヘルシンキ大学の Aapo Hyvarinen 教授と共同研究を行うなど国際的に活躍しており、日本統計学会小川研究奨励賞にふさわしい。

11. 第5回 細谷賞授賞について

松田 安昌（東北大学大学院経済学研究科）

東北大学大学院経済学研究科では、細谷雄三名誉教授の統計学界における教育・研究への貢献を記念して、広く人文・社会科学分野における若手研究者のデータ科学研究を奨励するため、2018年に細谷賞を創設しました。2023年3月31日を期日に第5回受賞候補者の公募を行い、学外者を含む選考委員会を設け、慎重な審査・選考を行いました。ここに選考結果を報告します。なお、本賞は東北大学須永特定基金より寄付を受け日本統計学会の後援により実施しています。

第5回受賞者

植松 良公（一橋大学）

Uematsu, Y. and T. Yamagata (2023). “Estimation of sparsity-induced weak factor models,” *Journal of Business & Economic Statistics*, 41, 213-227.

講評

植松良公氏はスパース性に誘導される「弱い」ファクターモデルを定義し、その推定方法を提案した。ファクターモデルの「強弱」とは、モデルの分散共分散行列における固有値の発散オーダーにより定義される。選択したファクターが同様にクロスセクション次元 N のオーダーで発散するモデルが従来の「強い」ファクターモデルに対し、それぞれが N 以下のオーダーで発散するモデルが「弱い」ファクターモデルである。植松氏は「弱

い」ファクターモデルの推定法として SOFAR 推定量を提案し、漸近論／非漸近論に基づく精緻な理論分析を行っている。実証分析では、シンプルな債券利回りの予測問題のほか、識別問題のため通常は難しいスパース負荷行列の解釈可能性や、ファーマ・フレンチ 5 ファクターモデルにおいて説明されなかった「弱い」ファクターの観測、そして株式リターンにおけるファクターの「強弱」について考察している。従来の「強い」ファクターモデルより「弱い」ファクターモデルへの拡張は、現実の経済・金融時系列データの共分散構造に照らして、本質的な貢献である。社会科学における統計 / データ科学研究の奨励を目的とする本賞にふさわしい成果である。

細谷賞選考委員会

松田安昌（選考委員長、東北大学）

大屋幸輔（大阪大学）

新谷元嗣（東京大学）

照井伸彦（東京理科大学）

Peter M. Robinson (London School of Economics and Political Science)

植松良公氏略歴

2007/3 一橋大学経済学部卒業

2013/9 博士（経済学、一橋大学大学院経済学研究科）

2014/4 日本学術振興会特別研究員 (DC1, PD)
 2018/4 東北大学大学院経済学研究科 講師
 2022/4 一橋大学大学院ソーシャル・データサイ
 エンス研究科 准教授
 2023年11月に第5回授賞式および Hosoya Prize

Lecture を開催する予定です。詳細は下記 webpage
 をご確認ください。
 東北大学大学院経済学研究科サービス・データ科
 学研究センター
<http://www2.econ.tohoku.ac.jp/~DSSR/>

12. 2023年度統計関連学会連合大会のお知らせ (第三報)

運営委員長 竹内 光悦 (実践女子大学)
 実行委員長 西山 慶彦 (京都大学)
 プログラム委員長 橋口 博樹 (東京理科大学)

2023年度統計関連学会連合大会 (京都大学吉田
 キャンパスで開催予定) について、現時点での進
 捗状況をご報告いたします。今大会は応用統計学
 会、日本計算機統計学会、日本計量生物学会、日
 本行動計量学会、日本統計学会、日本分類学会の
 6学会主催により開催されます。初日の9月3日
 (日) はチュートリアルセッションと市民講演会、
 2日目以降 (9月4日 (月) ~ 7日 (木)) は一般講
 演や企画セッションなどを開催する予定です。

なお新型コロナウイルスへの感染症の対応につ
 きましては、「5類」に移行されたことから、特
 別な対応については予定していませんが、感染状
 況に注意しながら政府と大学の動きを踏まえて対
 応していきます。感染予防につきましては引き続
 きご協力のほど、よろしくお願いします。この第
 三報では、チュートリアルセッション、市民講演
 会、企画セッション、コンペティションセッシ
 ョンなどの概要を項目ごとにご紹介いたします。今
 後、連合大会のウェブページ <http://www.jfssa.jp/taikai/2023/> に
 関連情報や詳細情報を随時掲載して
 いきますので、ご覧ください。

1. 開催方式と講演申込のご案内

講演申込の期間については5月10日 (水) から
 受付を開始する予定です。講演申込の詳細につ
 きましては連合大会のウェブページをご確認くだ
 さい。講演申込は昨年度までと同様に Confit という
 Web システムを使いますので、上記の連合大会

ウェブページから行ってください。講演申込締切
 は【6月1日 (木) 17:00厳守】となります。

2. 大会日程、開催場所、各種受付期間

大会日程	9月3日 (日): チュートリアルセ ッションと市民講演会 9月4日 (月) ~ 7日 (木): 本大会
開催場所	京都大学吉田キャンパス
主催	応用統計学会、日本計算機統計学 会、日本計量生物学会、日本行動 計量学会、日本統計学会、日本分 類学会
講演申込	5月10日 (水) 11:00 ~ 6月1日 (木) 17:00 厳守
報告集原稿 提出	6月5日 (月) 11:00 ~ 6月23日 (金) 17:00 厳守
事前参加申込 (割引料金)	6月5日 (月) 11:00 ~ 8月21日 (月) 17:00 厳守
通常参加申込 (通常料金)	8月21日 (月) 17:00 ~ 当日

※当日現地会場では参加申込受付しません。

3. 講演の申込

講演には次の種類があります。

- ・一般講演
- ・企画セッション講演
- ・コンペティション講演

申込方法は、すべての講演に共通の事項と種類
 ごとに異なる事項があります。ご注意ください。

(1) すべての講演に共通の事項

講演をご希望の方は、連合大会のウェブページからお申し込みください。これ以外の申込方法はありません。申込ページでは、「一般講演」、「企画セッション講演」、「コンペティション講演」のいずれかを選択してください。原則として、申込は講演者が行ってください。ただし、「企画セッション講演」に限り、オーガナイザーが講演者に代わって申し込むことも可能です。

(2) 「一般講演」に関わる事項

通常の講演は「一般講演」として講演者がお申し込みください。ウェブページ上の講演申込手順に従って申込をしてください。プログラム編成の際の参考にしますので、関連分野を第一希望から第三希望までご選択ください。また講演者（連名講演者を含む）のうち、少なくとも1名は主催6学会のいずれかの会員であることが要件です。

(3) 「企画セッション講演」に関わる事項

企画セッション講演者は、予めオーガナイザーから連絡を受けた整理番号に対応するセッションを申込ページの整理番号欄にて選択してください。例えば、整理番号が12であると連絡を受けた講演者は、「企画セッション講演 12」を選択してください。なお企画セッション講演者（連名講演者を含む）については、主催6学会いずれかの会員であることを要件としません。

オーガナイザーが代理で申し込む場合は、それぞれの講演の申込を1件ずつお願いいたします。

(4) 「コンペティション講演」に関わる事項

コンペティション講演は、研究内容とプレゼンテーションの能力を競う企画です。参加資格は、次のいずれかの条件を満たす方です。

(a) 2023年4月1日時点で30歳未満の若手研究者（博士後期課程院生を含む）

(b) 講演時に学部学生や修士課程（または博士前期課程）院生（年齢は問いません）

上記(2)と同様に、関連分野を第一希望から第

三希望までご選択ください。

連名講演の場合、コンペティション対象者は実際に口頭発表する方です。またコンペティション対象者は、講演申込時に主催6学会のいずれかの会員でなければなりません。ただし入会申請中の方も認めます。プログラム委員会から各学会事務局に会員照会し、会員（もしくは入会申請中）でないことが判明した場合は、コンペティションへのエントリーを取り消しますので、十分にご注意ください。講演申込締切日までに会員もしくは入会申請中の状況にしておいてください。

審査は複数名の審査委員による5段階評価にもとづく投票で実施する予定です。選考はプログラム委員会で行います。審査では、研究内容とともに、研究発表のプレゼンテーションについても評価します。発表者が十分に準備・工夫し、充実したプレゼンテーションであることを期待しています。原則として、最優秀報告者1名、優秀報告者数名程度を選考します。

コンペティションセッションは、9月4日（月）～6日（水）（予定）に現地対面の形式で開催し、9月7日（木）に表彰式を行う予定です。なおコンペティション応募総数は年々増加傾向にあり、プログラムを組むのが難しくなっています。したがって、今年度も申込順で受け付け、応募状況によってはコンペティション参加件数を制限することがあります。

(5) 講演言語の選択欄

講演申込のページの講演言語欄では、「日本語・英語のどちらでもよい」、「日本語」、「英語」、のいずれかを選択してください。

(6) 希望発表形式の選択欄

企画セッションは、「オンライン」（オンラインでの遠隔からの発表）、または「現地」での発表のいずれかを選択してください。一般講演では、【「現地」のみ】での発表となります。「オンライン」での発表はございませんのでご容赦ください。

4. 講演報告集用原稿の提出

(1) 「一般セッション講演」, 「コンペティション講演」に関わる事項

報告集用の原稿はA4サイズで1ページです。インターネット経由で電子ファイル(PDF形式)を提出していただきます。「2. 大会日程・開催場所・各種受付期間」をご参照の上、原稿提出期間を厳守してください。今年度の予稿集は昨年度までと異なり、【紙媒体での配布はせずに、オンラインのみでの閲覧・配布】となります。昨年度までの各講演のPDF閲覧・配布と同様に、予稿集全体をシステムにログイン後に閲覧・配布となります。オンライン上の予稿集での公開を希望されない場合はタイトルと著者名のためのページとしますので、報告用原稿提出時に、その旨ご指示ください。

(2) 「企画セッション講演」に関わる事項

原則として、講演者が提出してください。書式・提出期間等は、上記(1)と同じです。オーガナイザーが代理で提出する場合は、セッション内の各講演について、上記(1)と同様にして1件ずつ原稿を提出してください(「2. 講演の申込(3)「企画セッション講演」に関わる事項」も参照)。その場合、オーガナイザーは、期限内に原稿を提出できるようなスケジュールで講演者に原稿作成・提出を依頼してください。詳細は、別途オーガナイザーに送付している資料等をご参照下さい。

(3) すべての講演に共通の事項

講演種別にかかわらず、ご希望の方は、報告集用原稿とは別に、各講演のページに掲載する詳細論文を受け付けます(A4サイズ、最大10ページまで、PDF形式、ファイルサイズは1MB以内、フォント埋め込み)。詳細論文ファイルを上記(1)と同じタイミングで提出していただきます。報告集用原稿および詳細論文の執筆要領については、上述の連合大会ウェブページをご覧ください。

(4) その他

別途購入費が必要となりますが、希望者には講演報告集を郵送にてお届けする予定です。希望される方は連合大会ウェブページにて詳細をご確認ください。

5. 企画セッションのご案内

学会や個人等から申請のあった30件の企画セッションが予定されています。整理番号、テーマ名、オーガナイザーの氏名・所属は以下の通りです。各テーマのねらいや講演者・講演タイトルなどについては、後日連合大会のウェブページに掲載される情報をご参照ください。

なお、企画セッションの運営はオーガナイザーに一任していますので、テーマについてのお問い合わせは、各オーガナイザーにお願いいたします。企画セッションの日程はプログラム作成時に決定いたします。

(整理番号)、テーマ名(セッション名)、オーガナイザー(敬称略、所属は申込情報を基に作成)

(01) ビジネスにおけるデータ科学の応用(松田安昌(東北大))

(02) 統計エキスパート人材育成－多様な分野での統計活用と発展(中西寛子(統数研))

(03) 統計数理研究所医療健康データ科学研究センター「医療健康データ科学のフロンティア」(松井茂之(名古屋大・統数研)、伊藤陽一(北海道大)、田栗正隆(東京医科大)、三分一史和(統数研))

(04) アカデミアと企業との共同研究(川野秀一(九州大)、藤澤洋徳(統数研))

(05) 個別化医療に向けたヘルスデータサイエンスの実践：臨床予測モデルの最前線(手良向聡(京都府立医科大)、松山裕(東京大))

(06) 応用統計学会企画セッション「高次元統計解析の最近の発展」(西山貴弘(専修大)、山本紘司(横浜市立大))

(07) 日本計算機統計学会 企画セッション『医療ビッグデータと疫学・統計の実際』(弘新太郎(ファイザー R&D合同会社))

(08) アクチュアリアル・データサイエンスの広

- がり（清水泰隆（早稲田大））
- (09) 応用統計学会 学会賞受賞者講演（南美穂子（慶應義塾大），星野崇宏（慶應義塾大））
- (10) 統計情報研究開発センター統計・データサイエンス力向上のための授業に係る優秀事例表彰授賞式・記念講演（會田雅人（統計情報研究開発センター））
- (11) 日本統計学会 会長講演，各賞授賞式，各賞受賞者記念講演（大森裕浩（東京大））
- (12) 日本統計学会 各賞受賞者記念講演（大森裕浩（東京大））
- (13) 確率微分方程式モデリングのための統計ソフトウェア開発プロジェクトYUIMAにおける最近の成果の紹介（小池祐太（東京大））
- (14) 統計改革の新地平—経済活動の構造変化をどのように捉えるか—(1)(肥後雅博（東京大））
- (15) 統計改革の新地平—経済活動の構造変化をどのように捉えるか—(2)(肥後雅博（東京大））
- (16) 公的統計のデータ構造化とマイクロデータ分析の展開（南和宏（統数研），伊藤伸介（中央大），高部勲（立正大））
- (17) 統計・データサイエンス領域の研究・実践における多様性の育成（多様性推進特別委員会，女性統計家・データサイエンティスト育成分科会）
- (18) データサイエンス系学部の現況（椎名洋（滋賀大））
- (19) 大規模データのプライバシー保護を目指した秘匿措置の展開可能性（佐井至道（岡山商科大），星野伸明（金沢大），伊藤伸介（中央大））
- (20) アカデミックにおける多様性と多様性推進の取り組みについて（南美穂子（慶應義塾大））
- (21) AI・デジタル時代に向かう統計・データサイエンス教育方法論の新展開（竹内光悦（実践女子大），藤井良宜（宮崎大），渡辺美智子（立正大））
- (22) ベイジアンモデリングの進展（入江薫（東京大））
- (23) 日本計量生物学会奨励賞受賞者講演（川口淳（佐賀大），口羽文（神奈川県立保健福祉大），

- 長谷川貴大（塩野義製薬），横田勲（北海道大））
- (24) プレナリーセッション（荒木由布子（東北大），各務和彦（名古屋市立大））
- (25) 地震ビッグデータ解析の最前線（長尾大道（東京大），加藤愛太郎（東京大），矢野恵佑（統数研））
- (26) アジアの公的ミクロ統計の活用（馬場康維（統数研），岡本基（統数研））
- (27) 社会的関心の高い問題における統計家の貢献と社会的使命—ヒトパピローマウイルス（HPV）ワクチンの安全性評価を題材にして（吉村健一（広島大），大津洋（順天堂大））
- (28) 偏りのあるデータに対する解析手法の最前線（森川耕輔（大阪大），菅澤翔之介（慶應義塾大））
- (29) 日本計量生物学会シンポジウム「計量生物学と生態学の新展開」（島津秀康（Loughborough University））
- (30) ソフトウェアデモンストレーションセッション（竹内光悦（実践女子大））

6. プレナリーセッション，チュートリアルセッション，市民講演会について

・プレナリーセッション

日時：2023年9月4日（月）午前【ハイブリッド形式】

オーガナイザー：荒木由布子（東北大学），各務和彦（名古屋市立大学）

座長：各務和彦（名古屋市立大学）

講演者：Prof. Jeng-Min Chiou（National Taiwan University; Academia Sinica）

タイトル：Multiple change-point detection in functional data

日本統計学会では科学研究費補助金：国際情報発信強化（B）「日本統計学会欧文誌から国際的新雑誌への発展を計る取組」による補助を受け，2年に1回の頻度で統計関連学会連合大会プレナリーセッションを企画しています。本セッションは，本計画に基づき，Prof. Jeng-Min Chiou（National

Taiwan University; Academia Sinica) を招聘し、プレナリー講演: Multiple change-point detection in functional data を企画します。講演は英語で行われます。2名の指定討論者(荒木由布子(東北大学), 今泉允聡(東京大学))を予定しています。

・市民講演会

今回の市民講演会では、「統計学を哲学する」の著者である大塚先生にご講演いただけることになりました。科学的探求における統計学の意義と、その進展が今後及ぼす我々の科学観への影響について、哲学的観点からご講演いただきます。

日時: 2023年9月3日(日) 13:00~14:00【ハイブリッド講演】

タイトル: AI以降の科学を考える

講演者: 大塚 淳氏(京都大学)

概要: 統計学は、「データから仮説を正当化する装置」として、現代科学において必要不可欠な役割を担ってきました。しかし近年のAI技術の急速な発展を受けて、科学と統計学の関係性は今後大きく変わっていくことが予想されます。人間の理解を遥かに超えた膨大なデータから導き出される結論は、いかなる意味で「科学的」と言えるのか。こうした問いは、単に科学的実践のあり方だけではなく、近代以降続いてきた「合理的かつ客観的な営み」としての科学観そのものへの再考を促します。本講演では、AI以降の科学のあり方について、共に考えてみたいと思います。

・チュートリアルセッション

今回のチュートリアルセッションでは、自然言語処理、人工知能、機械学習の分野でご活躍の岡崎直観先生をオーガナイザーとして、「言語モデルと自然言語処理のフロンティア(仮題)」と題して複数の講師の方々からご講演を行っていただく予定です。

日時: 2023年9月3日(日) 15:00~18:00(休憩時間を含む)【ハイブリッド講演】

テーマ: 言語モデルと自然言語処理のフロンティ

ア(仮題)

オーガナイザー: 岡崎 直観氏(東京工業大学)

講師: (調整中)

7. 参加申込と大会参加費

参加登録については大会ウェブページからの申込のみとなります。現地での参加申込受付は致しません。円滑な大会の運営のためにも、また参加費割引のためにも、事前参加申込をご利用ください。受付期間は「2. 大会日程, 開催場所, 各種受付期間」を参照してください。事前参加申込の場合, 参加費が大幅に割引になりますのでぜひご利用ください。

大会参加費(報告集代を含む)

	事前申込	当日受付
会員(主催6学会の会員)	7,000円	10,000円
学生 (会員・非会員を問わず)	3,000円	8,000円
学生以外の非会員	15,000円	20,000円

チュートリアルセッション参加費(資料代を含む)

	事前申込	当日受付
会員(主催6学会の会員)	3,000円	4,000円
学生 (会員・非会員を問わず)	2,000円	3,000円
学生以外の非会員	6,000円	8,000円

懇親会参加費

	事前申込	当日受付
会員(主催6学会の会員)	10,000円	12,000円
学生 (会員・非会員を問わず)	5,000円	6,000円

※会場の都合により、懇親会参加は先着90名様とします。事前参加申込が90名に満たない場合は通常参加申込も受け付けます。

【注意】

- (1) 講演申込をされた方も参加申込の手続きが必要です。
- (2) これまでの大会と同様に、事前申込のキャンセルと変更は認められません。
- (3) 主催6学会の会員以外の方が、企画セッショ

ンや特別セッションでオーガナイザーから依頼されて講演される場合、大会参加費は無料となります。

(4) 市民講演会は無料です。

(5) 報告集およびチュートリアルセッション資料の紙媒体での購入をご希望される場合は、参加登録のページからお申し込みください。

(6) 昨年度と同様に、企画セッションでのオンラインでの発表者の方には、チュートリアル・市民講演会の開催日（9月3日（日）、予定）にテスト会場を準備する予定となっておりますので、ご利用ください。

8. 宿泊・アクセス案内

今大会では宿泊の斡旋はいたしません。各自で早めに宿泊の予約をお済ませください。大会会場の京都大学吉田キャンパスへのアクセスについては上述の連合大会ウェブページをご覧ください。

9. 託児施設の利用案内

本大会では、託児施設を利用される場合予算内

にてその費用を補助する運びとなりました。本大会に対面参加し託児所利用費の補助を希望される方は、以下の（1）～（3）の手続きを行ってください。

手続きに必要な託児所利用補助申請書と託児費用申請書は、大会ウェブサイト内の「宿泊・観光」ページでダウンロード可能です。

（1）8月20日（日）までに託児所利用補助申請書を下記の担当者にメールにてお送りください。

（2）託児所の選定・予約は、各自で行ってください。

（3）9月15日（金）までに託児費用申請書と領収書（原本）を申込・問い合わせ先の担当に郵送してください。

申込・問い合わせ先

担当：2023年度統計関連学会連合大会実行委員会
E-mail：jikkou2023 (at) jfssa.jp (at) を@に置き換えてください。

なお、予算の関係上、全額の補助ができない場合がありますので、ご了承の程お願いいたします。

13. 被選代議員会報告

日時：2023年3月3日（金）午後7時30分～午後8時27分

場所：Zoom（ミーティングID：864 0556 5428）

出席者：樋口知之（会長）

被選代議員：青嶋誠、赤谷俊彦、足立浩平、岩崎学、上野玄太、大森裕浩、加藤昇吾、狩野裕、鎌倉稔成、川崎茂、川崎能典、川野秀一、栗木哲、栗原考次、西郷浩、酒折文武、清水誠、瀬尾隆、高部勲、竹村彰通、田畑耕治、椿広計、富澤貞男、中西寛子、西山慶彦、樋口知之、廣瀬慧、南和宏、山下智志、山本義郎、美添泰人、渡辺美智子

（以上、32名）

選挙管理委員：小山慎介、小池祐太（庶務理事）

冒頭、樋口会長より被選代議員の出席者および選挙

管理委員の確認後、開会宣言がなされた。また、樋口会長より議事録署名人として足立浩平、川崎能典、両被選代議員が提案され、承認された。

審議事項

第1議案 会長候補者の選出に関する件－会長選挙規程第3条

樋口会長より、資料に基づき、被選代議員会による会長候補者選出方法について（会長選挙規程第3条より抜粋）および歴代会長について説明された後、提出された会長候補者推薦理由書が提示された。投票の結果、照井伸彦氏を会長候補として選出することに決定した。

第2議案 被選理事長の選出に関する件－役員選任規程第2条

樋口会長より、資料に基づき、被選代議員会による被選理事長の選出方法について（役員選任規程第2条より抜粋）について説明があり、被選代議員名簿が提示された。投票の結果、川崎能典被選代議員を被選理事長とすることに決定した。

報告事項

1. 次回日程等

樋口会長より、役員・代議員協議会は2023年9月に開催される予定であることの報告があった。

14. 2023・2024年度会長選挙開票報告

小池 孝明・矢野 恵佑（2023・2024年度代議員選挙管理委員）

本学会会長選挙規程第6条による2023・2024年度会長候補者に対する選挙が行われ、2023年4月25日（火）、統計情報研究開発センターにおいて、選挙管理委員2名（小池孝明、矢野恵佑）により

開票した結果、照井伸彦氏が被選会長として当選しました。有権者数1,323名中、投票数347、うち有効票数344で、内訳は、賛333、否11、無効票数3でした。

15. 理事会・委員会報告（2023年5月13日開催）

一般社団法人 日本統計学会 理事会

日時：2023年5月13日（土曜日）

午後1時04分～午後1時54分

場所：東京大学本郷キャンパス小島ホール1F第1セミナー室

ハイブリッド出席型バーチャル理事会として実施

Zoom（ミーティングID：850 5676 8931）

理事の総数 14名 出席理事の数 14名

監事の総数 3名 出席監事の数 3名

出席者：

理事：樋口知之会長、大森裕浩理事長、小山慎介（庶務）、小池祐太（庶務）、吉田靖（会計）、増田弘毅（JJSD）、柳原宏和（会誌編集和文）、中島上智（広報）、吉羽要直（大会・企画・行事）、各務和彦（国際）、荒木由布子（国際）、瀬尾隆（渉外）、佐藤整尚（渉外）、竹内光悦（教育）、（以上14名、括弧内は役割分担）

監事：岩崎学、川崎茂、山下智志

委員（オブザーバー）：川崎能典（学会組織特別）

第1議案 2022年度事業報告について

大森理事長より、資料に基づき、2022年度事業について報告があり、審議の結果これを承認し、社員総会に諮ることとした。

第2議案 2022年度決算報告について

大森理事長より、資料に基づき、2022年度決算について報告があり、吉田会計理事により追加の説明がなされた。審議の結果これを承認し、社員総会に諮ることとした。

第3議案 監査報告について

岩崎監事、川崎監事、山下監事より、2022年度事業報告および決算の監査結果について報告があり、審議の結果これを承認し、社員総会に報告することとした。

第4議案 臨時委員会における委員の交代について

大森理事長より、資料に基づき、臨時委員会の委員の交代が以下の通り提案され、審議の結果これを承認し、社員総会に報告することとした。

・JSS-Springer 委員会

北川源四郎委員より清水邦夫委員に交代（2023年4月1日付）

第5議案 赤池メモリアルレクチャー賞選考委員会規則の改正について

大森理事長より、資料に基づき、赤池メモリアルレ

クチャー賞選考委員会規則の改正について提案がなされた。審議の結果これを承認し、社員総会に諮ることとした。

第6議案 会員の入退会

大森理事長より、回収資料に基づき、入退会希望者が紹介され、審議の結果、一部修正の上これを承認し、社員総会に提出することとした。

一般社団法人 日本統計学会 委員会

日時：2023年5月13日（土曜日）

午後1時54分～午後3時18分

場所：東京大学本郷キャンパス 小島ホール1F第1セミナー室

ハイブリッド出席型バーチャル理事会として実施
Zoom（ミーティングID：850 5676 8931）

出席：理事14名、監事3名、委員1名、計18名

樋口知之会長、大森裕浩理事長、小山慎介、小池祐太、吉田靖、増田弘毅、柳原宏和、中島上智、吉羽要直、各務和彦、荒木由布子、瀬尾隆、佐藤整尚、竹内光悦、岩崎学（監事）、川崎茂（監事）、山下智志（監事）

川崎能典（学会組織特別）

<報告事項>

1. JJSD 支援委員会

増田委員長より、JJSDの編集状況について報告があった。

2. 和文誌編集委員会

柳原委員長より、和文誌の編集状況について報告があった。

3. 大会委員会

吉羽委員長より、2023年度統計関連学会連合大会の第三報が発行されたことが報告された。

4. 企画・行事委員会

吉羽委員長より、資料に基づき、第16・17回春季集会の運営について報告がなされた。

5. 庶務委員会

小池委員長より、以下について報告がなされた。

・会長選挙結果について

・後援承諾について

・第6回統計データ分析コンペティション

総務省統計局、独立行政法人統計センター、大学共同利用機関法人情報・システム研究機構統計数理研究所及び一般財団法人日本統計協会の共催

・第71回統計グラフコンクール

主催：公益財団法人 統計情報研究開発センター

・第17回データビジネス創造コンテスト

～ Digital Innovators Grand Prix 17 (DIG17) ～

主催：慶應義塾大学 SFC 研究所 データビジネス創造・ラボ

6. 広報委員会

中島委員長より、4月末に会報195号が発行されたことが報告された。

7. 国際関係委員会

各務委員長より、連合大会プレナリーセッションおよび KSS-JSS-CSA Joint Sessions の予定について報告があった。

8. 渉外委員会

佐藤委員長より、資料に基づき、科研費の交付申請について報告がなされた。

9. 質保証委員会

瀬尾委員長より、統計質保証推進協会で開催された事業委員会の内容が報告された。

10. ISI 東京大会記念基金運営委員会

川崎委員長より、第3回 ISI 東京大会記念奨励賞の受賞者について報告があった。

11. 統計教育委員会

竹内委員長より、資料に基づき、2022年度 統計質保証推進協会との業務委託に関する報告がなされた。

12. その他

小池委員長より、以下について報告がなされた。

・JINSE 事業に関する中間報告

・和文誌冊子体配付方法の変更時期について

<審議事項>

1. JJSD 支援委員会

審議事項なし

2. 和文誌編集委員会

審議事項なし

3. 大会委員会

審議事項なし

4. 企画・行事委員会

審議事項なし

5. 庶務委員会

審議事項なし

6. 広報委員会

審議事項なし

7. 国際関係委員会

審議事項なし

8. 渉外委員会

審議事項なし

9. 質保証委員会

審議事項なし

10. ISI 東京大会記念基金運営委員会

審議事項なし

11. 統計教育委員会

審議事項なし

12. その他

審議事項なし

今後の予定

2023年5月27日（土）13：30

定時社員総会：東京大学本郷キャンパス小島ホール
2F コンファレンスルーム（オンライン参加も可能）

16. 社員総会報告

一般社団法人 日本統計学会 社員総会

日時：2023年5月27日（土曜日）午後1時30分～午後
3時00分

場所：東京大学本郷キャンパス小島ホール2Fコンファ
レンスルーム

ハイブリッド出席型バーチャル社員総会として実施
Zoom（ミーティングID：834 5274 7851）

出席代議員：會田雅人，青嶋誠，岩崎学，大森裕浩，
狩野裕，川崎能典，西郷浩，坂本亘，瀬尾隆，竹村彰
通，谷崎久志，椿広計，中野純司，樋口知之，廣瀬慧，
増田弘毅，山下智志，美添泰人，渡辺美智子（以上30
名，委任状提出11名，議決権行使書4名）

オブザーバー：吉田靖，小山慎介，小池祐太，照井伸
彦，高部勲

冒頭，樋口会長より定足数を満たしていることを確
認の後，開会宣言がなされ，オブザーバー5名の出席
が承認された。樋口会長より，議事録署名人として西
郷浩，谷崎久志両代議員に依頼する旨説明があり，承
認された。

審議事項

第1議案 2022年度事業報告及び決算に関する件

樋口会長より，資料に基づき，2022年度の事業報告
と決算報告について報告がなされた。オブザーバーの

吉田会計理事より，2022年度決算報告について追加の
説明がなされた。また，岩崎監事，川崎監事，山下監
事から特に問題はなかった旨の監査報告をいただいで
いることから，審議の結果，これを承認した。

**第2議案 赤池メモリアルレクチャー賞選考委員会規
則の変更に関する件**

樋口会長より，資料に基づき，赤池メモリアルレク
チャー賞選考委員会規則の改正について提案がなされ，
審議の結果，これを承認した。

第3議案 学会賞各賞の選考委員の承認に関する件

樋口会長より，2024年度の学会賞各賞（中村隆英賞
を除く）の規程に基づく会長が推薦する選考委員とし
て，駒木文保会員および西郷浩会員が推薦され，審議
の結果，承認された。

第4議案 理事及び監事の選任に関する件

樋口会長より，理事および監事の任期満了による退
任と，その後任の選任について以下の通り提案がなさ
れ，審議の結果，承認された。

理事（樋口知之，大森裕浩，小池祐太，増田弘毅，
柳原宏和，中島上智，吉羽要直，各務和彦，佐藤整尚，
瀬尾隆，竹内光悦）及び現監事（岩崎学，川崎茂，山
下智志）が本社員総会の終結と同時に任期満了し，退
任することになり，その改選の必要があるため，以下
のように後任の理事及び監事を選任する（2023年5月
27日付）。

理事 照井伸彦, 川崎能典, 伴正隆, 増田弘毅, 原尚幸, 小西葉子, 高部勲, 鎌谷研吾, 植木優夫, 瀬尾隆, 竹内光悦

監事 樋口知之, 大森裕浩, 山下智志

報告事項 (理事会報告)

1. 和文誌冊子体配付方法の変更について

大森理事長より, 和文誌冊子体の送付を希望者のみに絞る措置を今年9月発行予定の53巻1号から開始する予定である旨が報告された。

2. 会員の入退会 (回収資料)

大森理事長より, 回収資料に基づき, 会員の入退会について報告がなされた。

3. その他

特になし。

報告事項 (委員会報告)

1. 臨時委員会における委員の交代について

大森理事長より, 資料に基づき, 臨時委員会「JSS-Springer 委員会」の委員の交代について以下の報告がなされた。

・ JSS-Springer 委員会

北川源四郎委員より清水邦夫委員に交代 (2023年4月1日付)

2. 2023年度統計関連学会連合大会について

大森理事長より, 2023年9月3日 (日) ~7日 (木) に, 2023年度統計関連学会連合大会が, 京都大学吉田キャンパスにて現地および遠隔 (オンライン) によるハイブリッド (ライブ) 方式で開催予定であり, 企画セッションとして, 日本統計学会各賞授賞式および日本統計学会各賞受賞者記念講演が予定されている旨が報告された。

3. 第17回春季集会 (2023年3月開催) の報告

大森理事長より, 2023年3月4日 (土) に開催され

た第17回日本統計学会春季集会について報告がなされた。東京都立大学南大沢キャンパスにて, 遠隔でのリアルタイム参加も可能な形で開催された。

4. 日本統計学会各賞受賞者の紹介

樋口会長より, 資料に基づき, 日本統計学会各賞の受賞者について以下のように報告がなされた。

日本統計学会賞: 柿沢佳秀氏, 富澤貞男氏

日本統計学会中村隆英賞: 原田泰氏, 安田聖氏

日本統計学会統計活動賞: 情報・システム研究機構 統計数理研究所

日本統計学会統計教育賞: 都丸希和氏, 香川県立観音寺第一高等学校 FESTAT (代表: 床田太郎氏)

日本統計学会研究業績賞: 奥井亮氏, 青木敏氏

日本統計学会出版賞: 該当なし

日本統計学会小川研究奨励賞: 明石郁哉氏, 松田孟留氏

5. その他

特になし。

報告事項 (その他)

1. 各種委員会からの報告

学会活動組織委員会と学会組織特別委員会からは特に報告すべき事項はない旨が報告された。大森理事長より, 竹内委員長に代わり, 資料に基づき, 統計教育委員会の活動報告がなされた。渡辺委員より, 南委員長に代わり, 資料に基づき, 多様性推進特別委員会の活動報告がなされた。

2. 研究分科会報告

大森理事長より, 資料に基づき, 女性統計家・データサイエンティスト育成分科会およびスポーツデータサイエンス分科会の各分科会の活動について報告がなされた。

3. その他

特になし。

2022 年度事業報告

(2022.4.1～2023.3.31)

学会の動向

日本統計学会は一般社団法人として 12 年目を迎え、2 年周期の学会事業の 6 期目の 2 年度を終えることになる。運営の経験を蓄積したことを生かして、樋口知之会長、大森裕浩理事長を含む 14 名の理事と 3 名の監事、および各種委員会における委員により、各種事業を着実に実施した。科学研究費「国際情報発信強化(B)」により、Japanese Journal of Statistics and Data Science の発行と国際セッションの実施が強化され、国際的な活動にも大きく貢献した年度であった。

2023 年 2 月 9 日現在の会員の数は 1,468 (名誉会員 13, 正会員 1,382, 準会員 9, 学生会員 64)、これに加えて賛助会員 17 法人、団体会員 8 団体がいる。

I. 出版編集事業

1. 和文誌の発行

和文誌 2 号(第 52 巻)シリーズ J 第 1 号(2022 年 9 月)、第 52 巻シリーズ J 第 2 号(2023 年 3 月)を発行した。内訳は原著論文 1 編、受賞者特別寄稿論文 2 編、特集論文 12 編、全 390 ページであった。

2. Japanese Journal of Statistics and Data Science 編集の支援

Japanese Journal of Statistics and Data Science 第 5 巻 (Issue 1, Issue2; 原著論文 42 編; 全 942 ページ)の発行に協力した。また、科学研究費助成事業 研究成果公開促進費「国際情報発信強化(B)」の採択により資金面での貢献ができた (なお、本科研費は国家的活動資金としても利用されている)。

3. 会報の発行

No.191 (4 月), No.192 (7 月), No.193 (10 月), No.194 (1 月) を発行した。

4. JSS Research Series in Statistics シリーズ(英文)の出版

昨年度に引き続き、JSS Research Series in Statistics シリーズの出版を行った。2022 年度は 4 冊(2023 年 3 月現在)が出版され、2021 年度以前に出版されたものを含めると全 36 冊が出版済である。

II. 内外学界交流事業

1. 日本統計学会第 90 回大会の開催

2022 年 9 月 4 日(日)～8 日(木)、成蹊大学にて、遠隔でのリアルタイム参加も可能な形で、2022 年度統計関連学会連合大会の一環として開催した。プレナリーセッションとして赤池メモリアルレクチャーを統計数理研究所と協力して開催し、また、企画セッションとして、日本統計学会各賞受賞者講演(各賞授賞式)および JISD セッションを実施した。

2. 春季集会の開催

2023 年 3 月 4 日(土)に第 17 回春季集会在東京都立大学南大沢キャンパスにて、遠隔でのリアルタイム参加も可能な形で開催された。参加者は 239 名 (現地 136 名、オンライン 103 名)であった。

3. 研究分科会の活動

以下の分科会が活動を行った。

「統計教育分科会」(藤井良宣主査 (2023 年 3 月より竹内光悦主査) : 2010 年 12 月発足, 2027 年 3 月終了予定)

「計量経済・計量ファイナンス分科会」(末石直也主査 : 2010 年 12 月発足, 2027 年 3 月終了予定)

「女性統計家・データサイエンティスト育成分科会」(小野陽子主査 (2023 年 3 月より渡辺美智子主査) : 2019 年 4 月発足, 2027 年 3 月終了予定)

「スポーツデータサイエンティスト分科会」(酒折文武主査 : 2021 年 6 月発足, 2025 年 5 月終了予定)

4. ダイバーシティの推進

臨時委員会「多様性推進特別委員会」が中心となり、女性統計家・データサイエンティスト育成分科会の協力の下、第 17 回日本統計学会春季集会においてダイバーシティ推進に関する企画セッションを開催した。

5. 赤池メモリアルレクチャー賞事業への協力

統計数理研究所と共同で創設した赤池メモリアルレクチャー賞事業の実施に協力した。第 4 回赤池メモリアルレクチャー賞 : アーボ・ヒバリネン

6. 国際会議への協力

2022 年 9 月 5 日 (月) ～ 6 日 (火) に、2022 年度統計関連学会連合大会の企画セッションとして、遠隔でのリアルタイム参加も可能な形で開催された日本統計学会・韓国統計学会・台湾統計学会共同開催の国際セッション「JSS-KSS-CSA Joint Sessions」3 件の開催に協力した。

7. 賞への推薦

令和 4 年度大内賞に川崎茂会員を推薦し、受賞が決定した。

III. 会員関係事業

1. 賞の授与

学会活動の活性化促進のため、以下の賞を授与した。

第 27 回日本統計学会賞 : 宮川 雅巳、駒木 文保

第 2 回日本統計学会中村隆英賞 : 若杉 隆平、舟岡 史雄、作間 逸雄

第 18 回日本統計学会統計活動賞 : 一般社団法人 データサイエンティスト協会

第 18 回日本統計学会統計教育賞 : 林 兵馬,

島根県立大学・浜田市 総務部総務課・島根県

- 第 16 回日本統計学会研究業績賞：本田 敏雄、丸山 祐造
 第 15 回日本統計学会出版賞：北川 源四郎・竹村 彰通・内田 誠一・川崎 能典・孝
 忠 大輔・佐久間 淳・椎名 洋・中川 裕志・樋口 知之・
 丸山 宏（共同受賞）（『教養としてのデータサイエンス
 （データサイエンス入門シリーズ）』）
 第 36 回日本統計学会小川研究奨励賞：佃 康司、入江 薫、石井 晶、矢野 恵佑

2. 各委員会の活動

社員総会（2022 年 5 月 21 日、2023 年 3 月 3 日）を開催した。
 理事会（2022 年 5 月 7 日、7 月 23 日、10 月 1 日、2023 年 2 月 9 日）を開催した。
 春季集会（2022 年 5 月 7 日）および委員で構成される春季集会準備会合（2022 年 11 月
 19 日）を開催した。
 役員・代議員協議会（2022 年 9 月 4 日）を開催した。
 その他の各種委員会を適宜、開催した。

3. 広報活動の充実

メーリングリストの使用やウェブサイトの充実により、各種情報発信を促進した。
 日本統計学会公式 YouTube チャンネルを通じて、2022 年度統計関連学会連合大会の
 企画セッションとして実施された日本統計学会各賞受賞者講演（各賞授賞式）および JISD
 セッションの模様、および第 17 回春季集会の講演動画を会員向けに配信した。

4. 入会者の拡大

若手研究者の入会を促進した。

IV. 啓発普及事業

1. 「統計検定」の実施協力

日本統計学会が認定団体となっている「統計検定」が、紙媒体（2022 年 11 月 20 日）お
 よび CBT の両方で、一般財団法人統計質保証推進協会により実施された。統計検定合
 格の電子的な証明として、オープンバッジが導入された。

2. MOOC による統計学講座の提供

MOOC のプラットフォーム gacco において、「統計学 I：データ分析の基礎」、「統計学
 II：推測統計の方法」および「統計学 III：多変量データ解析法」を開設した。

3. 統計教育関連事業の推進

2022 年度統計関連学会連合大会にて「Society 5.0 の実現に向けた統計教育に関する
 動きと課題」と題した企画セッションを実施した。

「第 20 回 統計教育の方法論ワークショップ」を 2023 年 3 月 12 日（日）～13 日（月）に
 日本統計学会統計教育分科会、情報・システム研究機構統計数理研究所と連携し主催した。
 190 名の参加登録があった。

「中高生・スポーツデズデータ解析コンペティション2022」を日本統計学会スポーツ
 データサイエンス分科会、同統計教育分科会と連携し、主催した。39 チームの参加があ
 り、審査・授賞を行った。

2022 年 10 月 22 日（土）～23 日（日）にオンラインにて開催された「理数系教員統計・デ
 ータサイエンス授業力向上研修集会（兵庫）」および 2023 年 3 月 18 日（土）～19 日（日）に
 対面開催された「理数系教員統計・データサイエンス授業力向上研修集会（宮崎）」を共
 催した。

国際プロジェクト Census@School への参画に伴い必要となる日本のシステム（センサ
 ス@スクール）改修のための費用を助成した。

統計質保証推進協会の事業委託を受け、1）ISI 多言語・統計用語対訳検索システムの
 リニューアル、2）中高生・スポーツデズデータ解析コンペティション2022—における賞状
 等の送付、等を行った。

そのほか、関連情報や関連のイベント等をメーリングリストやサイトを利用して告知
 した。

V. その他

1. 細谷賞の後援

東北大学大学院経済学研究科が創設した細谷賞を後援した。

第 4 回細谷賞：會田 剛史

2. 第 3 回 ISI 東京大会記念奨励賞の募集開始

2 年ごとに開催される ISI World Statistics Congress が 2023 年 7 月にカナダで対面開
 催されることに伴い、第 3 回 ISI 東京大会記念奨励賞の募集を開始した。

3. 代議員選挙および会長選挙の実施

定款および代議員選挙規程、会長選挙規程に従い、代議員選挙および会長（会長候補者、
 被選会長）選挙を実施した（2023 年 3 月末日時点では、被選会長選挙は投票期間中）。

4. 学会誌冊子体配付方法の変更

2020 年 12 月より和文誌が完全オープンアクセス化されたこと、昨今の紙資源の使用削
 減の流れ、および社会全体のデジタルトランスフォーメーション化の推進を受けて、団
 体会員・賛助会員への学会誌冊子体の送付の廃止、会員（準会員除く）への和文誌冊子
 体の送付を希望者のみとする、という変更を行なった（2023 年 3 月末日時点では、後者は
 希望者の募集中）。

5. ISI 東京大会記念基金運営委員会規則の改正

同基金の事業の目的として「統計学及び統計の発達・普及に貢献する ISI 関係の日本に
 おける事業」への助成も可能となるよう規則改正を行った。

6. 学会業務のデジタルトランスフォーメーション化の推進

理事会及び社員総会の審議の効率化を図るため、オンラインによる議決も可能となるよ
 う運用を改めた。

事業報告附屬明細書

[illegible]

附属明細書に記述すべき事項はない。

17. 理事会・委員会報告（2023年5月27日開催）

一般社団法人 日本統計学会 理事会

日時：2023年5月27日（土曜日）午後3時10分～午後4時18分

場所：東京大学 本郷キャンパス小島ホール2Fコンファレンスルーム

ハイブリッド出席型バーチャル理事会として実施
Zoom（ミーティングID：881 6405 2539）

理事の総数 14名 出席理事の数 13名

監事の総数 3名 出席監事の数 3名

出席者：

理事：照井伸彦会長，川崎能典理事長，小山慎介（庶務），伴正隆（庶務），吉田靖（会計），増田弘毅（JJSD），原尚幸（会誌編集和文），小西葉子（広報），高部勲（大会・企画・行事），荒木由布子（国際），鎌谷研吾（国際），植木優夫（渉外），瀬尾隆（渉外），（以上13名，括弧内は役割分担）

監事：大森裕浩，樋口知之，山下智志

第1議案 会長及び理事長の選出について

開会にあたり，被選理事長川崎能典が選ばれ，暫時，議長を務めた。議長は，会長樋口知之と理事長大森裕浩が任期満了により退任することとなり，会長選挙の結果，照井伸彦会員が被選会長として選ばれ，被選代議員会において川崎能典代議員が被選理事長として選ばれた旨を述べた。これについて慎重に協議した結果，会長選挙規程および役員選任規程に則り，全員一致をもって，以下のとおり選定した。被選定者は，席上，その就任を承諾した。

会長 照井伸彦

理事長 川崎能典

以降の議長は理事長が務めることとした。

第2議案 常設委員会における委員の交代について（資料1）

川崎理事長より，資料に基づき，JJSD 支援委員会，

和文誌編集委員会，大会委員会，企画・行事委員会，庶務委員会，広報委員会，国際関係委員会，渉外委員会における委員の交代について説明がなされ，審議の結果，承認された。

JJSD 支援委員会

浅井学委員，内田雅之委員，紙屋英彦委員，黒住英司委員，西郷浩委員，清水信夫委員，清水泰隆委員，清智也委員，谷崎久志委員，蛭川潤一委員，松井茂之委員，松浦峻委員，松田安昌委員，丸山祐造委員，宮田敏委員，柳原宏和委員，Chia-Lin Chang委員，Ching-Kang Ing委員，Ja-Yong Koo委員，Shiqing Ling委員，Michael McAleer委員，Marcelo C. Medeiros委員，Hee-Seok Oh委員，Haipeng Shen委員，Wing-Keung Wong委員よりイリチュ美佳委員，植木優夫委員，村上秀俊委員に交代（2023年5月27日付）

和文誌編集委員会

大野忠士委員，荻原哲平委員，佐藤整尚委員，田中未来委員，松井秀俊委員，吉羽要直委員，若木宏文委員より伊藤ゆり委員，橋本真太郎委員，原尚幸委員，廣瀬善大委員，福井敬祐委員，松下幸敏委員，吉田拓真委員に交代（2023年5月27日付）

大会委員会

吉羽要直委員より高部勲委員に交代（2023年5月27日付）

企画・行事委員会

小方浩明委員，長倉大輔委員，中妻照雄委員，中山厚穂委員，星野崇宏委員，吉羽要直委員より高部勲委員，塚原英敦委員，玉谷充委員，秋元良友委員に交代（2023年5月27日付）。第2回理事会で委員若干名の追加選出を予定。

庶務委員会

委員長を小池祐太委員より小山慎介委員に交代（2023年5月27日付）。小池祐太委員，橋本真太郎委員より神谷直樹委員，伴正隆委員に交代（2023年5月27日付）

広報委員会

城田慎一郎委員，高橋慎委員，中島上智委員より浦沢聡士委員，小西葉子委員，塚本高浩委員に交代（2023

年 5 月 27 日付)

国際関係委員会

委員長を各務和彦委員より荒木由布子委員に交代
(2023 年 5 月 27 日付)。各務和彦委員より鎌谷研吾委員
に交代 (2023 年 5 月 27 日付)

渉外委員会

佐藤整尚委員より植木優夫委員に交代 (2023 年 5 月 27
日付)

第 3 議案 常設委員会における委員の再任について (資 料 1)

川崎理事長により、資料に基づき、JJSD 支援委員会、
和文誌編集委員会、渉外委員会、質保証委員会、統計
教育委員会における委員の再任について説明があり、
審議の結果、承認された。

JJSD 支援委員会

奥井亮委員、金森敬文委員、増田弘毅委員、矢田和
善委員を再任 (2023 年 5 月 27 日付)

和文誌編集委員会

江村剛志委員、ソルヴァン比呂子委員、柳原宏和委
員、山村麻理子委員を再任 (2023 年 5 月 27 日付)

渉外委員会

西郷浩委員、瀬尾隆委員、山下智志委員を再任 (2023
年 5 月 27 日付)

質保証委員会

瀬尾隆委員、国友直人委員、西郷浩委員、福地純一
郎委員、矢島美寛委員を再任 (2023 年 5 月 27 日付)

統計教育委員会

岩崎学委員、鎌倉稔成委員、川崎茂委員、栗原孝次
委員、酒折文武委員、瀬尾隆委員、高部勲委員、竹内
光悦委員、田村義保委員、椿広計委員、藤井良宜委員、
宿久洋委員、美添泰人委員、渡辺美智子委員を再任
(2023 年 5 月 27 日付)

備考

学会活動特別委員会および学会組織特別委員会は、
9 月の役員・社員協議会で社員が互選で決定する予定
である。

第 4 議案 会員の入退会

川崎理事長より、回収資料に基づき、入退会希望者
を紹介され、審議の結果、承認された。

18. 分科会報告

計量経済・計量ファイナンス分科会 (2019-2022 年度) 報告

主査 末石直也 (神戸大学)

本分科会は 2002 年 12 月から活動を行っている。
以下では 5 期目にあたる 2019 年 4 月から 2023 年 3
月までの主な活動内容を報告する。

1. 関西計量経済学研究会

毎年 1 月に関西計量経済学研究会を共催してい
る。プログラム等については、
<http://stat.econ.osaka-u.ac.jp/~kkkk/> を参照。

(1) 2019 年度 (第 27 回)

開催日: 2020 年 1 月 11 日, 12 日

幹事校: 一橋大学

(2) 2020 年度 (第 28 回)

開催日: 2021 年 1 月 9 日

幹事校: 福岡大学

(3) 2021 年度 (第 29 回)

開催日: 2022 年 1 月 8 日, 9 日

幹事校: 東北大学

(4) 2022 年度 (第 30 回)

開催日: 2023 年 1 月 7 日, 8 日

幹事校: 大阪大学

2. Summer Workshop on Economic Theory

Summer Workshop on Economic Theory において
計量経済学のセッションを開催した (司会と報告
者の所属は当時のもの)。

開催日: 2019 年 8 月 9 日

場所: 小樽経済センター

司会: 岩澤政宗 (小樽商科大学)

プログラム:

・山田宏 (広島大学) “Ten Things We Should Know

About Graph Laplacian Penalized Smoothing”

- ・末石直也（神戸大学）“Semiparametric Efficiency Bound for Moment Restriction Models with Time Series Observations”
- ・澤田真行（一橋大学）“Non-compliance in randomized control trials without exclusion restrictions”
- ・伏島光毅（東京大学）「内生性がある誤差項が非加法的な回帰モデルの下での処置効果の識別・推定方法について」
- ・明石郁哉（東京大学）“Robust local linear inference for heavy-tailed non-regular processes”
- ・田中晋矢（青山学院大学）“Large-Scale Panel Autoregressive Models”

3. 日本経済学会の企画セッション

日本経済学会秋季大会において企画セッション「バブルと感染爆発－非エルゴード的時系列の検出」を開催した。

開催日：2021年10月9日

場所：大阪大学

座長：西山慶彦（京都大学）

プログラム：

- ・人見光太郎（京都工芸繊維大学）“Sequential Test for Unit Root in First Order Autoregressive Model”
- ・永井圭二（横浜国立大学）“Sequential Test for the Criticality of Branching Processes”
- ・陶俊帆（京都大学）“Time-Changed Method in Non-ergodic Autoregressive Process and Branching Process”
- ・黒住英司（一橋大学）“Time-Transformed Test for the Explosive Bubbles under Non-stationary Volatility”

4. Transdisciplinary Econometrics & Data Science Seminar

2021年9月より、計量経済学、統計学、機械学習などのデータサイエンス分野の研究者を招き、オンラインでのセミナーシリーズを開催した。Princeton大学のJianqing Fan氏やWisconsin大学のBruce Hansen氏など世界的に著名な研究者も報告を行い、2023年3月末までにおよそ30回のセミナーを開催した。開催履歴など詳細について

は、以下を参照。

<https://teds-datascience.github.io/seminars/>

女性統計家・データサイエンティスト育成分科会 (2019年度～2022年度) 報告

主査 小野陽子（横浜市立大学）

本分科会は2019年度活動より承認された。2022年度までの4年間の活動を紹介する。なお、発足時は14名の女性会員で分科会が構成された。

分科会主催ワークショップ・シンポジウム・コンペティション

2019年度

第17回統計教育の方法論ワークショップ・理数系教員授業力工場研修会

2021年度

- (1) シンポジウム「多様性と学会」(2022年1月8日、オンライン開催)：統計・DS関連学会の活動を踏まえ、多様な価値との邂逅の場としての学会の在り方につき討議。参加者、約100名
- (2) 第16回日本統計学会春季集会企画セッション「VUCA時代の価値創造－多様性からみるDS人材育成」を企画、実施(2022年3月5日)。産学官からの講演・パネル討論を行った。

講演1：小野陽子（横浜市立大学）

「女性統計家・データサイエンティスト育成の現状と課題」

講演2：西垣淳子（経済産業研究所）

「多様性人材育成とデザイン」

講演3：渡辺美智子（立正大学）

「文理融合といわれるDSの人材育成」

講演4：佐伯論（データサイエンティスト協会）

「企業のデータサイエンティスト人材育成と教育の実情、そしてDS協会の果たす役割とは」

パネル討論：

椿広計（統計数理研究所）、小野陽子、西垣淳子、渡辺美智子、佐伯論

分科会後援ワークショップ・シンポジウム・コンペティション

日本統計学会関連

第17回日本統計学会春季集会における多様性推進特別委員会を中心とした企画セッション（2023年3月4日開催）を支援した。

企画セッション概要：

「米国の多様性推進の取り組みに学ぶ」 Learning from U.S. Diversity Promotion Efforts

オーガナイザー：松井 知子（統計数理研究所），渡辺 美智子（立正大学），南 美穂子（慶應義塾大学）

座長：松井 知子（統計数理研究所）

講演 1：Motomi Mori（St. Jude Children's Research Hospital）

“Caucus for Women in Statistics: Promoting and Supporting Women in Statistics and Data Science” 「統計分野の女性研究者のための Caucus：統計学とデータサイエンスにおける女性の活躍と支援」

講演 2：Jimmy Doi（California Polytechnic State University）

“DEI (Diversity, Equity, Inclusivity) at Cal Poly Statistics Department” 「カルフォルニア大学統計学部の DEI（多様性，公平性，包括性）について」 パネル討論：

パネリスト：Motomi Mori, Jimmy Doi, 松井 知子，渡辺 美智子，南 美穂子

WiDS TOKYO@YCU 関連

2019年度

(1) 第1回ワークショップ「SDGsとデータサイエンス」（2019年7月30日，実施場所：東京都千代田区）：国連の持続可能な開発目標（SDGs）の実現にはデータサイエンスが重要な役割を果たすことが期待されていることにつき，講演，質疑討論等を実施。参加者，約100名

(2) 第2回ワークショップ「データサイエンスへの誘い」（2019年8月7日，実施場所：横浜市立大学）：主として高校生に対し，DSの面白さ等につき講演を実施。参加者，約200名

(3) 第3回ワークショップ「データサイエンス教育の未来とWiDSの役割」（2019年9月4日，実施場所：横浜市立大学）：米国スタンフォード

大学Judy Logan氏（WiDSプロジェクト共同代表）を招へいし，DSに関する高等教育の今後に関する講演・意見交換を実施。参加者，大学関係者約100名

(4) 第4回ワークショップ「データサイエンスの未来とWiDSの役割」（2019年9月5日，実施場所：東京都港区）：上記Judy Logan氏を招へいし，DSの未来に関する講演・意見交換を実施。参加者，産業界関係者等約100名

(5) 第5回ワークショップ「アイディア・チャレンジ2020への誘い」を開催（2019年12月18日，実施場所：東京理科大学）：アイディアの作り方等についてのワークショップを実施。参加者，約50名

(6) 第6回ワークショップ「体験とデータから「すこやかに働く」アイディアを考えよう」を開催（2020年2月13日，実施場所：東京都新宿区）：(株)帝国データバンク，(株)NTTデータ経営研究所の協力を得て，アイディアの作り方等についてのワークショップを実施。参加者，約30名

(7) 「アイディア・チャレンジ2020」の募集，表彰を実施：「すこやかに働く」をテーマにデータに基づく斬新なアイディアを募集したところ（2019年12月4日～2021年1月12日※），学生，社会人13組の応募があり，最優秀賞，優秀賞，奨励賞を選定，下記12. のシンポジウムで表彰。（2020年3月18日）

※新型コロナウイルス禍のため，2020年2月募集手続きを一時中断。2020年10月16日再開。

(8) 第2回シンポジウム（2020年3月18日，オンライン開催）：DSの知見を応用し，ファッション・デザイン領域で活躍中の女性による講演等を通じてDSの広がり，面白さ，可能性等を提示，DS領域への若い女性人材の参画を促進。参加者，約150名。なお，上記ファッション・デザイン領域に関する講演内容は，世界50か国以上で行われているWiDSに関する活動におけるベストプレゼンテーションの一つに認められ，我が国のDS領域の活動を世界に発信すること

ができた。

2020年度

- (1) ワークショップ「データサイエンスの「光」を上げ「影」を薄くするために～「データ思考」を志す人材が考えなければならないこと～」を開催（2020年12月16日、東京都千代田区）：post 5G社会を念頭に、DSに関係する人材に求められる倫理的課題に関する講演と意見交換を実施。参加者、約100名
- (2) 「第1回ライトニングトーク」参加者の募集、表彰を実施：「データサイエンス×SDGs×任意のキーワード」をテーマに、データに基づく意見発表者を募集したところ（2021年2月12日～2021年2月28日）、学生、社会人より7組の応募者があり、(3)のシンポジウムにおけるプレゼンテーション※審査を踏まえ、最優秀賞、優秀賞、貢献賞、奨励賞を選定、表彰（2021年3月18日）。奨励賞は、参加した高校生に授与し、将来の進路としてDS領域への参入をいざなった。

※プレゼンテーションは女性

- (3) 第3回シンポジウムを開催（2021年3月8日、オンライン開催）：WiDS Global（世界大会）アジア・太平洋地区セッションと一部連携して開催。DSの日本酒醸造等領域で活躍中の女性による講演等を通じてDSの広がり、面白さ、可能性等を提示、DS領域への若い女性人材の参画を慫慂。参加者、約250名

2021年度

- (1) 「第2回ライトニングトーク」参加者の募集、表彰を実施：「データサイエンス×SDGs×任意のキーワード」をテーマに、データに基づく意見発表者を募集したところ（2022年1月20日～2022年2月24日）、10組の応募者がありシンポジウムにおけるプレゼンテーション※審査を踏まえ、最優秀賞、優秀賞、奨励賞を選定、表彰。（2022年3月8日）※プレゼンテーションは女性
- (2) 第4回シンポジウムを開催（2022年3月8日、オンライン開催）：「データからストーリーをつ

むぐ」をテーマに、DS関連領域で活躍中の女性による講演等を通じ、DSの広がり、面白さ、可能性等を提示、DS領域への若い女性人材の参画を慫慂。参加者、約300名（2022年1月24日付文部科学省後援名義使用許可取得）

統計教育分科会（2019－2022年度）報告

主査 藤井良宜（宮崎大学）

2019年4月から2023年3月までの統計教育分科会の活動を紹介する。

小、中、高等学校の学習指導要領が改訂され、2020年4月から小学校で、2021年4月から中学校で新学習指導要領が全面実施され、高等学校では2022年4月から年次進行で実施されている。今回の学習指導要領の改訂でも、統計的な内容の充実が図られており、その対応を行う意味でもこの4年間は重要な時期であった。統計教育分科会は統計学会員だけでなく、幅広く統計教育を推進する人々を対象にして活動を行ってきた。この間の活動は以下のとおりである。

1. 統計教育の方法論ワークショップの開催

- (1) 第17回 2020年2月28－29日 於 統計数理研究所
AI時代の統計・データサイエンス教育の体系化～初中等から大学・社会人教育への展開～
12セッション 特別講演等3題 研究発表等20件
注）新型コロナウイルス感染拡大の影響で、中止し、紙面発表とした。
- (2) 第18回 Part I 2020年8月22日、9月5日、10月16日 オンライン（zoom）
3セッション 研究発表等 16件
- (3) 第18回 Part II 2021年2月26-27日 オンライン（zoom）
初等中等から大学に至る統計・データサイエンス教育の体系化と評価の枠組み
6セッション 特別講演1件 研究発表等 21件
- (4) 第19回 2022年3月18－19日 オンライン（zoom）

初中等および高等教育における ICT 活用した
次世代型データサイエンス教育の展望

7 セッション 特別講演等 3 題 研究発表等
26 件

注) 当初は、統計数理研究所と zoom でのハイブリッド開催を予定していたが、感染拡大に伴い zoom でのオンライン開催となった。

(5) 第20回 2023年3月12-13日 於 統計数理研究所およびzoomによるハイブリッド開催
ニューノーマル時代における統計教育の展望—
統計教育での教育の DX 化, オンライン／オフ
ラインでの探求学習の展開
3 セッション 研究発表等 16 件

2. 理数系教員統計・データサイエンス授業力向上研修集会 (共催)

AI/ デジタル社会を担う人材育成と教育体系
～新課程における統計・データサイエンス教育
の円滑実施と高大社接続・産学連携授業～

- (1) 愛媛 2022年1月11-12日 オンライン(zoom)
プレセッション, チュートリアルセッション,
特別セッション, その他4セッション
- (2) 兵庫 2022年10月22-23日 オンライン(zoom)
特別セッション, その他4セッション
- (3) 宮崎 2023年3月18-19日 宮崎大学創立330記
念交流会館他
プレセッション, ランチセッション, 特別講

演, 講演2件, その他3セッション

3. ISLP 国際統計ポスターコンペティションの 日本予選

IASEの国際統計リテラシープロジェクト(ISLP)
が2年に1度, 実施しているポスターコンペティ
ションに, 日本からも出品するため, 統計教育分
科会が中心となって, 日本の予選会を実施してい
る。2020-2021年のコンペティションにおいて, 日
本代表の神戸大学附属中等教育学校の生徒3名に
よる作品が多数の応募の中からYounger age division
の部門でFirst prizeを受賞した。

[http://iase-web.org/islp/Poster_Competition_2020-2021.
php?p=Prizewinners](http://iase-web.org/islp/Poster_Competition_2020-2021.php?p=Prizewinners)

4. ウェブページやメーリングリストによる情報 発信

Web ページやメーリングリストを利用して, 統
計教育の方法論ワークショップや理数系教員授業
力向上研修会のほか, 日本品質管理学会が主催し
ている科学技術教育フォーラムやTQE 問題解決
オンラインセミナー, また統計グラフコンクール
の結果などを発信している。現在のメーリングリ
ストの登録者は, 250名(令和5年2月2日現在)
であり, 多くの方々へ情報発信を行っている。

統計教育分科会の詳しい情報は, 以下のWeb サ
イトから発信しているので, ご参照いただきたい。

<https://estat.sci.kagoshima-u.ac.jp/SESJSS/index.html>

19. 和文誌送付方法の変更

大森 裕浩 (前日本統計学会理事長)

53巻1号より日本統計学会誌冊子体の配付方法
を変更いたします。

2022年10月末から11月上旬にかけて会報に同封
した案内, ウェブサイトおよび会員向けメーリン
グリストにてご連絡差し上げた, 「日本統計学会
誌冊子体の送付を希望者のみに限定する」という
措置ですが, 今年9月発行予定の53巻1号より開
始することが決まりました。本件につきまして,

会員の皆様のご協力に感謝いたします。

なお, 電子媒体につきましては, 近年の分は,
J-Stage より無料で閲覧いただけます。

<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/jjssj/-char/ja/>

他のリソースについては,

<https://www.jss.gr.jp/act/journals/>

をご参照ください。ぜひご活用ください。

20. 博士論文・修士論文の紹介

最近の博士論文・修士論文を紹介いたします。

(1) 氏名 (2) 学位の名称 (3) 取得大学 (4) 論文題名 (5) 主査または指導教員 (6) 取得年月の順に掲載いたします。

博士論文

● (1) 江頭健斗 (2) 博士 (理学) (3) 筑波大学 (4) Classification methodologies with high-dimensional data in heterogeneity of sample size and covariance matrices (5) 青嶋誠 (6) 2023年3月

● (1) 中島翔平 (2) 博士 (理学) (3) 早稲田大学 (4) Asymptotic inference for stochastic differential equations driven by fractional Brownian motion (非整数ブラウン運動が駆動する確率微分方程式に対する漸近推測論) (5) 清水泰隆 (6) 2023年3月

● (1) 重本秀人 (2) 博士 (理学) (3) 関西学院大学 (4) Essays on forecasting models of realized covariance matrix and volatility spillover investigation (5) 森本孝之 (6) 2023年3月

修士論文

● (1) 鈴木 慧 (2) 修士 (理学) (3) 筑波大学 (4) Reconstruction of the high-dimensional signal matrix by a thresholding method (5) 青嶋誠 (6) 2023年3月

● (1) 太田一樹 (2) 修士 (理学) (3) 筑波大学 (4) プールした高次元標本共分散行列におけるノイズ掃き出し法 (5) 青嶋誠 (6) 2023年3月

● (1) 佐々木雅征 (2) 修士 (理学) (3) 筑波大学 (4) 非正規分布におけるデータ変換を用いた高次元判別手法 (5) 青嶋 誠 (6) 2023年3月

● (1) 溝口雄太 (2) 修士 (理学) (3) 筑波大学 (4) 強スパイク固有値モデルにおける高次元相関行列の検定 (5) 青嶋誠 (6) 2023年3月

● (1) 綿引 駿 (2) 修士 (理学) (3) 筑波大学 (4) 高次元データの異常値検出に関する一考察 (5) 青嶋誠 (6) 2023年3月

● (1) Wen HUO (2) 修士 (理学) (3) 早稲田大学 (4) A tail estimate for empirical processes of multivariate Gaussian under general dependence and its application (5) 清水泰隆 (6) 2023年3月

● (1) 浅野一海 (2) 修士 (理学) (3) 早稲田大学 (4) 微小拡散過程のノンパラメトリック法を用いた離散観測によるドリフト推定 (5) 清水泰隆 (6) 2023年3月

● (1) 小島祐太 (2) 修士 (理学) (3) 早稲田大学 (4) IG-SEMを用いた死亡率予測の改善：関数データ解析を用いた関数推定 (5) 清水泰隆 (6) 2023年3月

● (1) 白井伽奈 (2) 修士 (理学) (3) 早稲田大学 (4) 生命エネルギーモデルを用いた完全平均余命の予測区間算定 (5) 清水泰隆 (6) 2023年3月

● (1) 高上雄太郎 (2) 修士 (理学) (3) 早稲田大学 (4) Prediction of information leakage by cyber incidents: Compound distribution and Value at Risk (5) 清水泰隆 (6) 2023年3月

● (1) 根本滉暉 (2) 修士 (理学) (3) 早稲田大学 (4) Statistical inference for stochastic functional differential equations and diffusion process with jumps from discrete observations (5) 清水泰隆 (6) 2023年3月

● (1) 原田拓実 (2) 修士 (理学) (3) 早稲田大学 (4) ガウスカーネル密度推定を用いた生命エネルギーモデルの区間推定 (5) 清水泰隆 (6) 2023年3月

● (1) 増田啓太 (2) 修士 (理学) (3) 早稲田大学 (4) 時間遅れをもつ微小誤差確率積分方程式における最尤推定量の漸近正規性 (5) 清水泰隆 (6) 2023年3月

● (1) 中瀬穂乃香 (2) 修士 (理学) (3) 関西学院大学 (4) MATVinesによるヴァインコビュラのシミュレーション分析 (5) 森本孝之 (6) 2023年3月

● (1) 丹波寅治郎 (2) 修士 (理学) (3) 関西学院大学 (4) 状態空間モデルによるコロナの感染者数推定 (5) 森本孝之 (6) 2023年3月

21. 新刊紹介

会員からの投稿による新刊図書の紹介記事を掲載します。

●佐藤健一・杉本知之・寺口俊介・江崎剛史『実況！Rで学ぶ医療・製薬系データサイエンスセミナー』学術図書出版社，2023年4月，3,080円（税込）

内容紹介：製薬企業向けに実施して大好評を博したセミナーを元に構成したRの実習書です。数式をなるべく用いず、段階的なデータ解析の流れや解析手法間の関係を習得することができます。

●笹田薫・松井秀俊『EXCELで学べるデータサイエンス入門講義』日経BP，2022年11月，2,200円（税込）

内容紹介：データサイエンス・AIの活用動向から、基本的なデータリテラシー、さらに統計や

データ分析の基礎までを、Excelを使って学べる教科書です。

●Shohei Shimizu『STATISTICAL CAUSAL DISCOVERY：LiNGAM APPROACH』Springer Tokyo，2022年9月，5,719円

内容紹介：因果仮説を探索するためのデータ解析法を紹介する入門書です。著者が提案したLiNGAM法と呼ばれる因果探索法の原理や方法を説明し、応用例を紹介します。

●松井秀俊『多変量解析（データサイエンス大系）』学術図書出版社，2023年3月，2,640円（税込）

内容紹介：多変量解析の主要な手法について、そのアイデア・理論・統計ソフトによる実践をバランスよく解説した入門書です。

22. JSS Research Series in Statistics からの新刊情報

日本統計学会編の書籍シリーズ JSS Research Series in Statistics からの新刊情報を掲載します。

●高橋慎・大森裕浩・渡部敏明『Stochastic Volatility and Realized Stochastic Volatility Models』Springer，2023年4月，冊子体：49.99ユーロ

内容紹介：本書は、確率的ボラティリティモデルの進展について、マルコフ連鎖モンテカルロシミュレーションの活用によるモデルパラメータの推定および金融資産リターンのボラティリティと分位点の予測に重点を置いて説明している。

23. 学会事務局から

学会費払込のお願い

2023年度会費の請求書が会員のお手元に届いていることと思います。会費の納入率が下がると学会会計に大きく影響いたします。速やかな納入にご協力をお願い申し上げます。便利な会費自動払込制度もご用意しています。次の要領を参照の上、こちらもご活用下さい。また、クレジットカードでの学会費払込も受け付けております。お

申込みは学会ホームページよりお願いいたします。（<https://www.jss.gr.jp/fec/>）。

学会費自動払込の問合せ先

学会費自動払込問合せの旨とともに、氏名と住所を以下にお伝えください。手続きに必要な書類が送付されます。

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-6

能楽書林ビル5F

公益財団法人統計情報研究開発センター内

日本統計学会担当

Tel & Fax : 03-3234-7738

E-mail : shom@jss.gr.jp

訃報

次の方が逝去されました。謹んで追悼の意を表し、御冥福をお祈り申し上げます。

三浦 由己 名誉会員

入会承認

秋山俊太, 池田和司, 石川雅之, 石塚治也, 巖名佑務, 海野哲也, 浦沢聡士, 大久保晋之介, 尾島宗真, 亀田希夕, 川本裕輔, 久保田理士, 車谷優樹, 小杉拓生, 小寺和磨, 小林武, 小林真佐大, CAI MING, 酒井彰, 佐々木天道, 佐々木雅広, 塩谷天章, 篠田桜楽, 白川清美, 杉本実優, 助田一晟, 鈴木莞司, 高倉将吉, 高橋明彦, 高橋敦, 高良佑樹, 竹内雄哉, DANG TUNG, 丹後健人, 張秉元, 中川皓太, 西颯人, 西邑勇人, 西森勇人, 藤木大地, 松田眞, 松本美幸, 丸山みなみ, 道脇啓人, 宮希望, 門田麗, 柳田真輝, 山下雅代, 山田俊皓, 屋良淳朝, 柚木慎太郎, 吉田淳一

郎, 吉富公彦, 林宣安, 若野綾子 (敬称略)

退会承認

相澤宥人, 芦川敏洋, 天谷永, 小寺和磨, 駒木泰, 笹渕祥一, 重本秀人, 白旗慎吾, 杉森滉一, 多田糸織, 田中純子, 玉置洋, 鶴雅紀, 中田竜明, 中西貢, 奈良武史, PARK HEEWON, 広津千尋, 伏島光毅, 本多佑三, 本間克仁, 松本正人, 松本幸雄, 道脇啓人, 山本史門, 吉田光正, マッケンジー・コリン・ロス (敬称略)

長期連絡不能により退会したとみなされた会員

荒木義明, 井戸貴大, 掛札純平, 葛木美紀, 小島慶嗣, 嶋崎真仁, 高田聖治, 田中紀子, 寺田亘, 夏悠寧, 藤岡光夫, 藤田智紀, 森裕一, 山本和信, 劉焰 (敬称略)

現在の会員数 (2023年7月1日)

名誉会員	12名
正会員	1,367名
準会員	8名
学生会員	69名
総計	1,456名
賛助会員	17法人
団体会員	8団体

24. 投稿のお願い

統計学の発展に資するもの、会員に有益であると考えられるものなどについて原稿をお送りください。以下のような情報も歓迎いたします。

●来日統計学者の紹介

訪問者の略歴, 滞在期間, 滞在先, 世話人などをお知らせください。

●博士論文・修士論文の紹介

(1) 氏名 (2) 学位の名称 (3) 取得大学 (4) 論文題名 (5) 主査または指導教員 (6) 取得年月をお知らせください。

●求人案内 (教員公募など)

●研究集会案内

●新刊紹介

著者名, 書名, 出版社, 税込価格, 出版年月をお知らせください。紹介文を付ける場合は100字程度までとし、主観的な表現は避けてください。

●会員活動紹介 (叙勲・受章, 各種受賞等)

できるだけe-mailによる投稿, もしくは, 文書ファイル (テキスト形式) の送付をお願い致します。

原稿送付先：

〒100-8901

東京都千代田区霞が関 1 丁目 3 番 1 号

経済産業省別館11階

独立行政法人経済産業研究所 小西 葉子 宛

E-mail: koho@jss.gr.jp

(統計学会広報連絡用 e-mail アドレス)

- 統計学会ホームページ URL：
<https://www.jss.gr.jp/>
- 統計関連学会ホームページ URL：
<http://www.jfssa.jp/>
- 統計検定ホームページ URL：
<https://www.toukei-kentei.jp/>
- 住所変更連絡用 e-mail アドレス：
meibo@jss.gr.jp
- 広報連絡用 e-mail アドレス：
koho@jss.gr.jp
- その他連絡用 e-mail アドレス：
shom@jss.gr.jp